年間事業報告書

2021年度 公益社団法人 呉青年会議所

理事長報告

理事長　神田　真生

～はじめに～

『虎穴に入らずんば虎子を得ず』ということわざがあり、虎の巣穴に入らなければ虎の子は得られないことから転じて、危険を冒さなければ成功することはないという意味で使われています。青年会議所活動において、虎の巣穴に入ることはありませんが、挑戦しなければ成功はない、成果を得ることができないといった点では同じです。

先人が築いたまちを、若者が引継ぎ、時代に合ったものへと変化させながら、後へと残し、また次世代へと引継いでいく。これからも、そうあるべきだと考えます。なぜなら、まちを盛り上げる原動力は若者だからです。

また、人の価値観は時代によって変化します。以前の常識も、数年で非常識に変化することがあります。若者のリーダーたる青年会議所会員は、その時代に即した価値観に誰よりも敏感であるべきです。そのため、変化を恐れてはいけません。

より良い変化をもたらすためには、新しいことにも挑戦し、成功を収めるための準備を万全に整えた上で、使えるものは惜しみなく使い、できることは何でもやってみる。我々青年会議所会員はそのように行動してゆくべきであると考えました。

そこで２０２１年度公益社団法人呉青年会議所はスローガンに『虎穴虎子』、活動の基本方針として、『若者あふれるまち呉の創造』、『変化を恐れず挑戦する』の２つを掲げて１年間活動してまいりました。

～若者あふれるまち呉の創造～

基本方針の１つ、若者あふれるまち呉の創造を達成するために、「呉市への愛着」、「脅威への備え」というキーワードで事業展開してまいりました。

「呉市への愛着」については、志産地生委員会が担当しました。

呉市において、課題とされていることの１つに人口減、生産年齢人口の減少があります。呉市外に進学した場合、呉に戻る人が少ないなど様々な要因が考えられますが、私は、物理的に呉に戻って来られないのではなく、精神的に戻って来たいと思わないから、呉市外で就職する人が多いのだと考えました。

それならば、呉市の若者、子ども達に幼い頃から、呉市に対しての愛着心を持ってもらい、育てる必要があり、愛着心を育てることで、たとえ進学で呉市外へ出たとしても、いずれ戻って来たいという心が芽生え、さらには、愛着心があることで、呉市での就職、結婚、その後の教育を含めた子育て、定住へとつながると考えました。

これまでも、呉青年会議所ではこのような課題に向き合い、５年後、１０年後さらにはその先の未来のために、様々な種を蒔いてきました。そこで今年度は「愛着」という種を蒔き

ました。新型コロナウィルスの蔓延により、例年通りの市民向けの事業ができるかどうか心配しましたが、対策を万全に、２つの事業を開催する事ができました。

１つ目が、志産地生創造事業１「ＣａｎＰｌｕｓ～出来た喜びをさらにプラス～」、愛着を持つためにはどうすればよいか、子ども達の自己肯定感を上げる、そのためには子ども達が褒められる場を提供するという答えを導きました。８組限定で、野呂山にて親子キャンプを開催しました。まずは、事前説明会で子ども達に自身の好きな所を書いていただきました。そしてキャンプラス当日は子ども達に様々なミッションを与え、クリアしていってもらいました。そのミッション中に、青年会議所会員含め大人達が褒めちぎりました。そして事業終了後に改めて子ども達に自身の好きな所を書いていただきました。参加いただいた１６人の子ども全員が事業前よりも多く自身の好きな所を言える事ができました。その結果、子ども達の自己肯定感を上げることができました。

２つ目の事業は志産地生創造事業２「呉を冒険メガすごろく」、親子や仲間同士で呉の魅力を語り、まちを誇れる関係を育む事を目的に開催しました。呉市中央公園を舞台に、メガすごろくを実施しました。呉市内４８社のご協賛もいただき、１１０組、３６６名もの多くの市民参加をいただきました。時間帯を分け、マスクを着用し、他のグループとはしっかりと距離を取り、ご家族、ご友人と楽しみながら、呉市の魅力を学んでいただき、参加者の中には「住んでいても知らない魅力がまだまだ発見できてよかった」などの好意的な意見を多数いただく事ができました。

また、この２つの事業に関しましては、呉青年会議所で初めて、紙媒体のポスターやチラシを作成せず、実験的にＳＮＳだけを活用した広報を行いました。伝えたい相手によっては紙媒体の方が良いといった反省点もありましたが、概ね好評で、これからそういった事も増えてくるであろうと感じています。

上記２つの事業を通して、「呉市への愛着」を市民に感じていただくための種になったと確信しております。

「脅威への備え」については、レジリエンスシティ委員会が担当しました。

何をするにしても準備が重要であると私は考えています。人は自分の身に起こったことでなければ考えづらい、準備しづらいのが実状です。しかし非常事態に対して、日頃から備えることはとても大切です。

そこで、産官学民のご協力の元、情報、行動、判断の分野で備えるべきことを学べる場を提供し、呉市民が災害発生時に被害の減少に繋がるよう備える「君がまちの防災ＨＥＲＯ！！！～体験して感じる命を守る大切なこと～」を開催し、意識を高める予定でした。参加者にとっては、防災フェスティバルですが、設営側に学生ボランティアを募集して、内部から脅威への備えについて学んでいただく予定でした。しかし、日程が緊急事態宣言中だった事もあり、防災フェスティバル自体の開催は見送らざるを得ない状態でしたが、せっかく集まっていただいた学生ボランティアに勉強の、意識向上の機会を何とか与える事はでき

ないかと、災害に関わる協議会を６回開催しました。
　その協議会を通して、脅威に対する備えの重要性と、意識を高められ、また、様々な体験をすることにより、危険かどうかの判断力や、有事の際の行動力を養うことができました。さらには、能動的な市民を代表し、自分事として脅威について体験と学びを得ていただいた事で、災害リスクに対し行動力と発信力のある若者が中心となり脅威に対応できるまちに向けての一歩となったと考えています。また学生ボランティアが協議会で学んだ知識と体験を生かして製作した３Ｄマップや防災パネルを、社会福祉協議会様を通して、呉昭和自主防災連合協議会様にお渡しし、展示いただく事で、求心力のある大人達が市民に啓発しそれが伝播するきっかけとなりました。
　この事より、「脅威への備え」が大切であると、理解いただけたものと考えています。

～変化を恐れず挑戦する～
　『虎穴虎子』をスローガンに掲げた以上、我々は多少のリスクを冒してでも、挑戦する事が必要です。今の状態が無難であれば人はなかなか新しい事に挑戦はしづらいとは思います。そこに敢えて今より一歩でも前に進むために、様々な事をやってみました。

　会員拡大では、会員拡大と新入会員の育成を行う、とにかく明るい委員会が毎年作成する会員拡大方針に加え、これまでにない新たな拡大手法を具体的に作成しました。「３本の矢」という手法で、青年会議所がこれまであまり得意としていない会員拡大について、ゲーム性を持たせ、明るく楽しくやっていきました。委員長のスローガンである「みんなでやれば何でも楽しい」を体現した素晴らしい事業となりました。結果的には委員長自らの行動力、それ以上に素晴らしい人間力のおかげがありまして、１２名という多くの新しい仲間に入会してもらう事ができました。
　また育成に関しては、２度のセミナーを通して呉青年会議所に関する基礎知識を学ぶのはもちろんの事、それ以上に呉市の課題や魅力といったものを学べる機会を提供しました。呉市、呉市民に対して事業を実施する呉青年会議所会員として恥ずかしくない１２名を育てました。
　課題でありました、女性会員につきましては、仮入会員として２名の方に参加していただきましたが様々な理由が重なり今回本入会は叶いませんでした。ただ女性に参加いただいた事でこれまでと違う角度の視点から、物事を見せてもらえる事ができました。女性拡大のためには、女性に対してもちろんのこと、誰もが活動しやすい環境にする必要があると実感しました。

　呉青年会議所の理念は、明るい豊かな社会の実現です。これを呉のまちへ広く、わかりやすく伝えるべく、君に届け！！！広報委員会が活動してまいりました。呉市民の皆様に、我々の活動に参加していただくには、皆様とのつながりを構築し、維持することが必要であ

り、我々の存在を、多くの人に知っていただくことが重要であると考えました。それを可能にするには、情報伝達の精度を上げ、仕組み、仕掛けを考え既存の媒体も含めて、新たな方法にも挑戦する必要がありました。

そこで既存のホームページ、フェイスブックやインスタグラムの精度をあげつつ、現在多くの方が使用しているＹｏｕＴｕｂｅとＬＩＮＥのアカウントを作成し、より多くの方々に気軽に呉市の魅力や呉青年会議所の活動内容、活動している会員に関する情報を目にしていただく機会を提供しました。これによって呉市民に様々な事を知って頂き、呉青年会議所に興味を持ってもらう事に繋がっていったと感じています。

４月２９日、本来であれば、呉市内で最大級のお祭りである「呉みなと祭り」開催予定日でしたが２年連続で中止となってしまいました。そこでその日に「君に届け！！！広報事業ＬＩＮＥ謎解き街歩き」～探偵Ｊ氏の事件簿　怪盗イーダからの挑戦状～と銘打って、呉中通商店街振興組合の方々と協力し、その名の通りＬＩＮＥを使って謎解きしながら中通で街歩きをしていただくという事業を開催しました。呉に関わる謎を解きながら歩き、結果的に１８７組、４２４名という多くの方々に、呉市、中通の歴史を知り、魅力を発見していただく事ができました。

２０２０年４月７日、７都府県において日本で初めて緊事態宣言が発令され、その後４月１６日には全国に広がり、我がまち呉も経済活動の規模縮小など、多大なる影響がありました。本来であれば、直接会って話をすることが、親交を深める、物事を伝える上で最も効果的です。これまで、会って、集まって活動することが当然でしたし、これからもそうあるべきだと考えています。そのような事が難しい時に、慌てることがないよう、オンライン会議の活用など、Ｍａｋｅ　Ｓｅｎｓｅ総務委員会は新たな形を考えました。

呉青年会議所には毎月１回以上例会を行うと定款で定められています。例会の運営に関して、新型コロナウィルスが猛威を振るい始めた２０２０年度は、全てが未知であったため、手探りで中止になってしまうこともありましたが、その後、オンラインでの開催という、呉青年会議所史上初の試みを行いました。２０２１年度は、昨年の知恵をお借りして、現地参加とオンライン参加というハイブリッド方式という新たな形を採用し、全ての例会を開催する事ができました。

また、その例会の内、来賓や特別会員（呉青年会議所ＯＢ）をお招きする機会が年に４回あります。１月、来賓と特別会員をお招きし新年互礼会、年間最初の例会が中止に追い込まれてもおかしくない状態でした。そこで来賓の方には事前にご挨拶をいただき、ＹｏｕＴｕｂｅで配信するという今までにない形に挑戦し、実施する事ができました。１１月、呉青年会議所の創立を祝う創立記念日例会、全てがコロナ前というわけにはいきませんでしたが、感染拡大がある程度落ち着いていましたので、参加者全員が会場入場前に検温、マスクの着用、席を１つ１つパーテーションで区切るといった感染症対策を施して、開催することができました。そして青年会議所会員にとって卒業となる４０才で迎える１２月第２例会であ

る卒業式・納会・送別会、こちらも同様の対策にて、無事に開催する事ができました。このように、新たな形も考え、会員やその家族を不安にさせない運営をしてゆく事ができました。

今年度は広島ブロック協議会の事業の１つである野球大会を主管させていただきました。その前夜祭において、今年度活用した現地とオンラインのハイブリッド方式を採用しました。野球大会の結果としては、３位となり、中国地区大会への切符を手にし、その中国地区大会でも３位という呉青年会議所史上、最上位を手にする事ができました。

また、中国地区協議会の褒賞の１つ、「新型コロナウィルス対応実践部門」にて２０２０年度実施された【呉で暮らす魅力を見つける事業「コロナに負けない！飲食店応援事業＃呉飯チャレンジ」】が見事受賞する事もできました。

～結びに～

「大変な時に理事長になったねぇ」この後には必ず「それでも頑張れよ」まで続きますが、様々な方からコロナウィルス蔓延の影響で思ったように事業ができない、運営ができないのではないかという心配から仰っていただいた言葉です。私自身、楽天的な所もありまして、大変は大変かもしれないけど、逆に大変じゃなかった理事長っていたのかな、と思っていました。

１年間、公益社団法人呉青年会議所の理事長をさせていただき、確かにコロナウィルスの影響もあって運営や、その他にも大変な事はあったかもしれません。ただ、呉のまちの明るい豊かな社会の実現のため、私の思った通りに活動させていただき、私自身は圧倒的に楽しい事の方が多かったように感じています。もちろん楽しいだけでは青年会議所が存在する意味がありません、今年度の取り組みが、一歩でも二歩でも、明るい豊かなまち呉へ近づけたのなら幸いに感じます。そして本当に大変だったのは、理事長の所信を形にしていく理事の皆さんの方であったと思います。そんな理事の皆さんには「大変な時に理事になってくれて、頑張ってくれてありがとう」という言葉を掛けさせていただきます。

１年間、気まま勝手で、時に厳しくほとんどやさしくしたと自負のある理事長についてきてくれた会員を始め、我々の活動に関わってくださった全ての皆さまに心から感謝申し上げまして、理事長報告とさせていただきます。当団体への、ご支援、ご協力誠にありがとうございました。

副理事長報告

副理事長　木内　裕之

本年度もコロナウイルスによる影響があったが、例会はハイブリッド開催を行い、各委員会の事業に関しては、概ね開催できたこと嬉しく思います。理事長所信の中にある「挑戦」に対して各委員長が真摯に受け止め、コロナ禍でも様々な角度から、事業開催に向け努力し行動に移した結果だと感じました。

しかし、こんな状況でもＪＣ活動を通して、メンバーが笑顔で終われたことに、大きな意味があると思っています。私は本年度、理事長から「呉市民に愛着を持たせる」というミッションを与えられた委員会を担当したのですが、まずは私を含め委員会メンバーが、笑顔で活動し「呉が好きだ」と感じていないと、まち事業の活動が意味をなしません。この１年たくさんの会議を重ね、色々と試行錯誤し２つの事業を執り行うことができました。そこに協力してくれたメンバーが、いつも笑顔で頑張ってくれたおかげで、一般参加者の方々に「呉は良いまち」という我々の気持ちが、少しかもしれないが伝わったと感じています。また、この気持ちの共感が青年会議所の掲げる「明るい豊かな社会」の実現に１歩近づいたと確信しています。

１年間、副理事長の職をさせてもらい、対人への言葉の伝達方法について、本当に勉強になりました。役が上がれば、言葉に重みが増していきます。自分の中では良い意味で言ったつもりが、相手からすると悪い意味に捉えてしまうことがあり、何か問題が出たときに重みが増すぶん圧力に変わってしまい、強制的に解決させることになります。そうではなく、いかにしたら解決できるかを考えさせ、事業構築でも相手の気持ちを理解し、更にはどうやったら具現化できるかを導き出すこと、ここが大切だと考えます。失敗を数えればキリがないですが、私自身また１つ成長できたと思っています。

このように、毎年たくさんの失敗や経験を重ね人は成長していきます。青年会議所も同じです。失敗や経験から多くを学び、個人も青年会議所も成長し続けて欲しいと、心から願っています。

副理事長報告

副理事長　國久保　純

本年度、呉青年会議所では、神田理事長のもとスローガン「虎穴虎子」を掲げ活動してきました。いつの時代にも勇気を出して 1 歩踏み出してきたからこそ現代の時代があるのだとつくづく感じます。我々自身も、道を切り開いていくことで我がまちに成果が生まれると信じ日々挑戦しております。

本年度は、再度副理事長という役職を受けさせて頂き、呉青年会議所内の人財の拡大、教育を行うアカデミー委員会、そして災害や身に降り注ぐ脅威に備える為のまちづくり委員会のラインを担当させて頂きました。

志々田委員長の「とにかく明るい委員会」では、会員の拡大増強から、入会面接、仮入会セミナー１、２とコロナ禍ながらもなんとかほぼ影響なく行うことが出来ました。コロナ禍でありながらも、徹底した措置を行い今年は１２名の新しい仲間が増えました。セミナーにおいても細かくスケジュールを組み、参加者同士関係を構築できる貴重なセミナーとなりました。

高村委員長の「レジリエンスシティ委員会」では、学生ボランティアを募集し共に脅威について学び、９月の防災フェス事業を行う予定でしたが緊急事態宣言によりやむを得ず、中止とし学生ボランティアと青年会議所メンバーのみで各所で、学び３Ｄマップの作製を行い寄贈するという形に切り替えました。計画通りにはいきませんでしたが、学生の方々にとって普段では得る事のできない多くの情報と経験を与えられたと思います。

二人の委員長を支える立場として、川本室長という存在がありました。室長という立場は副理事長と委員長との間に立ち、双方の意見をまとめる重要な役目です。スピーディーな動きと柔軟なバランス感覚で重要な役目を補って頂きました。

我々呉青年会議所は、毎年違う内容の事業を行っております。その為、多くのメンバーが深く考え、苦悩するのもよく見ます。しかし、まちを良くする為、多くのメンバーをまとめる為には誰よりも深く考え、自ら行動することが必要です。

この度、両委員長も考え苦悩する日を過ごしたと思いますが、委員長として頼もしいリーダーシップを見せてもらい、彼らの成長だけでなく、自分自身の成長にも繋がる良い１年となりました。

副理事長報告

副理事長　高橋　利齊

今年度の呉青年会議所は、「虎穴虎子」をスローガンに掲げ、新しいことに挑戦し、できることは何でもやるという精神で、まちへの事業を展開してきました。

これまでも呉で事業展開してきた団体ですから、毎年違った方法でまちへの事業や対内事業を行ってきましたが、改めてスローガンに掲げる事で、新型コロナウイルスの感染対策を徹底的に講じて、より新しい事業に挑戦できたのだと思います。

私は、総務・広報ラインの担当副理事長として、私が広報委員会の副委員長だったときと総務委員会の委員長だったときの経験を生かし、今年度に臨みました。

具体的には、Ｍａｋｅ　Ｓｅｎｓｅ総務委員会には、式典などの厳粛な場では合理的でミスのない設営をすること、創立記念日例会や納会・卒業送別会ではその場に最も適した内容で設営すること、例会では「教えて　〇〇先生」を創設し、岡本委員長らしさを前面に出した内容にすること、時には簡素に時には派手にとメリハリを大事にすることを意識してもらいました。

君に届け！！！広報委員会には、最初の対外事業の「君に届け！！！広報事業」においては広報として目立つこと、吟醸化された情報の見せ方に拘ること、呉市の広報の細かいところまで妥協しないことを意識してもらいました。

総務の岡本委員長は、自身にしかできない動画を作成し、毎回メンバーに刺激を与えるような例会にしようと、様々な演出に悩みながらも挑戦していただき、広報の坂本委員長は、呉青年会議所のメンバー紹介、呉市内の隠れた名店、桜や紅葉の名所など、多くの広報事業に対して真摯に向き合っていただきました。

そしてフル渦動室の平岡室長が、二人の個性的な委員長に的確な助言や指導をしてくれたおかげで、両委員会がその個性を発揮しつつも放縦にならず、正しい方向へ進むことができました。常に真摯に、自分に厳しく、言うべきことを言い、嫌な役回りもためらわず引き受けてくれました。至らぬ私の代わりに、平岡室長には厳格なＪＡＹＣＥＥの範を示していただきました。

もちろん全てが成功した訳ではなく、反省点もあります。そんな中でも青年会議所は１年間を、がむしゃらに、一生懸命に新しいことに挑戦したかどうかが大切な団体だと思っています。そういった意味であれば、今年度は新しいことに挑戦し続けた、まさにフル稼働した年でした。今年の経験をまた今後に繋げていき、更に創立７０周年を迎える２０２２年度が最高の年になる事を祈念し、副理事長の報告とさせていただきます。

１年間、誠にありがとうございました。

専務理事報告

専務理事　久保　大乗

２０２１年度、呉青年会議所は神田理事長の掲げられたスローガン「虎穴虎子」のもと、活動をしてきました。私は専務理事として、事務局を統括しながら呉青年会議所活動の運営を担っていくことを自らの使命と受け止め、１年間邁進してきました。

２０２０年度から続く新型コロナウイルスの脅威は、２０２１年度になってもなお消えることはありませんでした。このような状況になることは予め予想ができたので、今までに前例の無い形になったとしても事業は行おうという考えのもと、各委員長には事業構築をしてもらいました。その最たる例が新年互礼会であったと考えます。

年明け最初の事業である新年互礼会は現地開催することが叶わず、事前に撮影した動画をインターネット上で公開する形で開催いたしました。当時は、新型コロナウイルス感染者が呉市内でも確認されていたため、全く集合しない新年互礼会という新しい形に挑戦しました。今振り返っても、この時の判断が正しかったのかどうかは分かりませんが、やはりお祝いの会は集まって行うのが一番良いということを再認識することとなりました。しかし、その経験があったからこそ、創立記念日例会と卒業式・納会・卒業送別会は、どのような状況であったとしても現地開催するという強い思いが生まれ、そのための準備、下調べを入念に行いました。

呉市民に向けた対外的な事業を今年度は４つ行いました。そのほとんどが日程の延期や内容の変更をせざるを得なくなり、計画通り行えた事業の方がわずかでしたが、事業自体は、どれも多くの方に参加して頂き、そのどれもが好評を博すことができました。状況が状況のため、本当に開催しても良いのか迷う場面もあり、時に悩ませてしまうこともありましたが、各委員長は最後まで本当によく頑張ってくれました。

このような難しい状況が続いていましたが、多くの候補者と面談し、またしっかりとした指導で仮入会員を導いてきたアカデミー委員会。結果として１２名の新入会員を迎えることができ、呉青年会議所に若く頼もしい新たな力が加わりました。

この１年間を振り返って、私のやったことなどほんのわずかなことしかありませんでした。理事長が先頭に立ってメンバーに方向性を示し、各委員長が理事長の思いを形にしようと奮闘する。副理事長、室長は委員長をしっかりとフォローし、事務局長は予算を中心にそれぞれの議案にしっかりと目を光らせ、セクレタリーは理事長のため身を粉にして動き、出向理事は外で得た経験をＬＯＭに還元する。私は、そんなメンバーが存分に力を発揮できるよう努めたつもりですが、どれだけのことができたか分かりません。ただ、素晴らしいメンバーと活動を共にできた１年間でした。ありがとうございました。

事務局長報告

事務局長　下中　嘉也

本年度も２０２０年度から続くコロナ禍により人と人とが対面しコミュニケーションを容易に行うことが制限される１年でありました。本年度はスローガンに「虎穴虎子」を掲げ、若者あふれるまち呉の創造、変化を恐れず挑戦する。当団体が目指すべき「明るい豊かな社会の実現」に少しでも近づくことが出来た１年であったと確信しています。

私は事務局長の役を拝命していただき、公益団体として事業の公益性と事業予算、事務局運営の予算を主に担当させていただきました。コロナ禍以前のような事業が行えない事やいつ人とひとが対面できなくなるかもしれない、という時代に立ち向かい本年度ならではの形で我々若き呉青年会議所のメンバーで挑戦し、市民を巻き込み公益性を持つ対外事業構築から運営を行うことが出来ました。また、対内事業に関しても各委員長が変化する社会情勢の中、新たな挑戦を行い事業構築していただきました。公益性と予算を担当したくさんの意見をさせていただく機会を頂き、多くの学びを得ることが出来ました。

２０１３年から続く公益社団法人としての運営は諸先輩方から引き継がれ、公益事業費率の管理や公益性の判断、運営スタイルは確立されていると考えます。今後、公益社団法人のあり方、公益運営のメリット・デメリットを引き継ぎ事務局長経験者として卒業まで同じ立場で役職を行う方に携わり、公益社団法人呉青年会議所として事務局長の経験を踏まえ公益や運営面で役を経験して得ることが出来た知識や経験を伝えていく役割も担って行きたいと考えます。

最後になりますが、微力な私を拝命していただきまいた神田理事長、１年間支えてくださいました久保専務理事、谷本セクレタリー、大町セクレタリー、佐々木事務局員、そして全ての皆さまに感謝申し上げ報告とさせていただきます。あっという間の一年間でしたが、たくさんの経験をいただくことが出ました。ありがとうございました。

室長報告

呉で活きるまちづくり室
室長　三戸　規弘

２０２１年度、私は神田理事長が掲げられたスローガン「虎穴虎子」のもと、木内副理事長ラインの室長として１年間務めさせて頂きました。また、まちづくりラインの室長として、「志産地生委員会」を担当させて頂きました。

「志産地生委員会」では、神田理事長の掲げられた所信から「呉市への愛着」という命題のもと、愛着を持つには高い自己肯定感が必要であるという森澤委員長の強い思いで、子ども達を対象とし、野呂山キャンプ場にて、志産地生創造事業１「ＣａｎＰｌｕｓ～できた喜びをさらにプラス～」を行いました。議案構築の時から、新型コロナ感染拡大に対する配慮を行い、参加者人数の縮小、ご家族での参加という縛りを付け事業を行いました。これは、どのような状況であっても、確実にまちづくりの事業を行うという森澤委員長の強い意志の現れでした。当初、８月に予定していた事業が、緊急事態宣言で延期になり、豪雨による再延期を余儀なくされましたが、参加者の皆様に対する丁寧な説明と、なんとしても事業を行うという志産地生委員会メンバーの思いが１０月の事業開催に繋がったと思います。

この事業を通して、「褒める」という手段を活用して、自己肯定感が高まり、子ども達自身に愛着を持たせ、自分達が住む地域を肯定的に捉える事が出来、呉市への愛着を持たせる事が出来たと確信しております。

１１月には、志産地生創造事業２「呉を冒険メガすごろく」を行いました。こちらの事業では、コロナ禍であっても野外で行う事業という事で５００名以上の一般参加者を集めた事業となりました。また、呉市内の企業から協賛を募り、オリジナルの「呉氏と呉を冒険すごろく」を作成し参加者に配布しました。参加者の募集をＳＮＳのみで行うという初の試みでしたが、参加者も集まり、参加された方からのアンケートでは心温まる内容の回答を多く頂きました。ＳＮＳのみでの参加募集の難しさ、協賛をお願いする企業回りの難しさを森澤委員長と共に学ぶ事が出来た事業となりました。この事業を通して、森澤委員長の考える「褒める」から「自己肯定感」が向上した参加者が増え、「呉氏と呉を冒険すごろく」を配布する事によって、呉のまちの魅力を学び、親子や仲間同士で楽しく呉の魅力を語りあえる関係性が出来た事が、呉市への愛着に繋がったと確信しております。

結びになりますが、室長という役職は私自身学ぶべき事が多くある役職でした。この役職を１年間やりきる事が出来たのは、木内副理事長と森澤委員長をはじめ志産地生委員会スタッフメンバーのおかげだと感じております。また、この様な役職を与えてくださった神田理事長、木内副理事長には大変感謝しております。１年間、誠にありがとうございました。

室長報告

呉ＪＣスマート室
室長　川本　昌生

２０２１年度、私は神田理事長の掲げたスローガンの『虎穴虎子』のもと、呉ＪＣスマート室の室長として青年会議所活動をさせていただきました。
呉ＪＣスマート室では、「レジリエンスシティ委員会」「とにかく明るい委員会」の２委員会を担当させて頂きました。

「レジリエンスシティ委員会」では、『君がまちの防災ＨＥＲＯ！！！～体験して感じる命を守る大切なこと～』の事業にボランティアとして参加してくれた若者が、中心となり災害に備える事が出来る事で、くれのまちが、災害や様々な脅威へ備えられるレジリエンスシティになると考えました。当初は、他団体と連携しフェス形式の事業を予定しておりましたが、開催間近に新型コロナの感染拡大によってフェス自体は中止せざるを得ませんでした。しかし、登録して下さったボランティアの学生に対して、様々な経験、学びの機会を提供する事に力を注ぎ、呉の若者が脅威に対してしっかり備える心を育むという事業目的を達成する事が出来ました。参加して頂いたボランティアの方々から、貴重な体験が出来た、災害に関して深く考えるきっかけになって良かったなどの言葉をもらい、その若者が中心となり災害に備える事が出来る様になると確信しております。

「とにかく明るい委員会」では、年々減少している会員の増加、女性会員の獲得、新入会員の育成に取り組みました。
会員の増加、女性会員の獲得のため、拡大事業「３本の矢」のもと、３人１組でのチームで拡大活動をする手法を取り、バラバラで動くよりもずっと効率の良い拡大活動を展開し、１８人の仮入会員を獲得する事が出来、その内女性２名を獲得出来ました。
育成面では、「仮入会員セミナーⅠ」「仮入会員セミナーⅡ」を行い、仮入会員同士の絆の熟成、仮入会員と現役会員との関係を強化する事で、多くの正入会員の獲得を目指しました。
残念ながら１２名の新入会員となり、女性会員の獲得は叶いませんでしたが、志々田委員長が、熱く厳しく育成してくれた１２名は、呉青年会議所の財産となり、来年度以降から活躍してくれると確信しております。

今年度、室長と言う役を経験させて頂き沢山の学びを得る事が出来ました。私は、２０２２年度の活動をもって、この呉青年会議所を卒業となります。卒業年度は、今まで経験した事を後輩メンバーに伝え、先輩方に助けて頂いた分を、現役会員に少しでも恩返しして行きたいと思っております。1年間、本当にありがとうございました。

室長報告

フル渦動室
室長　平岡　達也

２０２０年度に委員長をさせていただいた際、とある先輩から、「充実したＪＣ活動を行うためには、やるべき事とやりたい事を合致させることが重要だ」というお話を伺った。

それまでのＪＣ活動の中で、「言われた事を淡々とやる」か「自分のやりたい事を押し通す」かの２択であるように感じていた私は、目から鱗が落ちる思いをした。

「やるべき事」と「やりたい事」を安易に妥協することなくギリギリまで調整し、第３の選択肢を追求することが、よりよい事業を構築していく上で重要なことに気付いたからだ。

２０２１年度、室長の役職を拝命することになり、先輩のこの言葉がすぐに頭に浮かんだ。これらの調整を行うことが室長に与えられた課題だと思った。

「フル渦動室」と名付けた室名には、会内を固める内向きのＭａｋｅＳｅｎｃｅ総務委員会と、会外に向けて魅力を発信していく外向きの君に届け！！！広報委員会にちなんだという面もあったが、「やるべき事」と「やりたい事」を調整してよりよい事業の構築に資するという私自身の課題も含めたつもりだった。

しかし、実際には、１年間を通じて、両委員長を一定方向に導くというよりも、岡本委員長の強いリーダーシップや、坂本委員長の実直に物事をやり抜く姿勢など、私が学ばせていただくことの方が多かった。

自ら事業を構築するでもなく、他人が構築した事業の問題点を指摘するだけでもなく、第３の選択肢を構想するためには、自分にはまだまだ力が不足していることを痛感するばかりであった。

今年度のスローガンの「虎穴虎子」。この故事成語は、とある中国の武将の伝記に残された発言である。この伝記には続きがある。

その武将は、引退するに際し、後任者にうまく統治を行うための教訓として、「水の清いところには大魚はないし、厳格な政治は下々の和を得ることはできない。だから何事もオットリと、また簡単にすませ、小さな過失は寛大に見のがして、ただ、ことの大綱だけはシッカリと握っておくこと」と伝えた。

この重要性を理解できなかった後任者は、知人に、その武将の言葉が平凡すぎてがっかりしたとの感想を言っていたが、結局、数年後には統治に失敗したという。

私のような役不足の室長でありながら、神田理事長、高橋副理事長をはじめ正副の皆様には、虎穴虎子の言葉を残したこの武将のように、温かく寛大に見守っていただき、成長の機会を与えていただきました。

この場を借りて御礼申し上げますとともに、この１年間で得た学びを、多くの人に届けられるように今後も精進してまいります。

出向理事報告

出向理事　内冨　竜也

２０２１年度、公益社団法人日本青年会議所中国地区協議会へ委員長として出向させていただきました。

中国地区協議会は「個と個の輝きの共鳴による　彩あふれる中国地区の創造」を基本理念とし、私が委員長を務めた地域の質的価値創造委員会では、２つの事業を実施いたしました。

一つは、観光情報ＰＤＦ編纂・配布事業です。これは地域経済の基盤となる観光資源に注目し、コロナ禍で下火となっている観光促進の一助となるべく、観光プランを構築、発信いたしました。それぞれの地域の魅力をその地域の人たちによって再発見していただき、その魅力を発信することで、他の地域に住む人たちにとって、地域の当たり前がどれほど特別なものかを改めて感じてもらうことで、地元への愛着や新たな可能性を発見していただく事業となりました。

もう一つは、ＪＣカップ U-１１少年少女サッカー大会です。本年、東京オリンピックが開催され、多くの若年選手が入賞しておりました。子供たちにとって１年１年が重要な時間であり、一つ一つの機会に大切な意味があると感じました。新型コロナの影響で、様々な機会が減少している子供たちにとって、学びある機会になったと思います。

地域の質的価値とは、その地域の価値を知り、その価値を活かす人財があって初めて創造されるものだと思います。本年は中国地区という地域で、質的価値という命題をもとに活動致しましたが、今回の出向で学んだことを地元呉でも活用し、より一層呉青年会議所の仲間と共に呉市の質的価値向上に励みたいと思います。

今回、初めての地区出向で委員長という大変重要な役職を担わせていただきました。中国地区という広域の中から集まった同志は、数少ない交流の機会を最大限大切にし、予定者の期間も含めるとたった１年半しか共に活動できない限られた時間の中で、互いに助け合い、共に悩んで活動して参りました。かけがえのない時間の中で、ＬＯＭとは違う絆が生まれ、たくさんの新たな発見や学びを得る機会をいただくことができました。

出向は、メンバーにとって多くの学びと経験の中で成長できる機会を提供してもらえます。地元地域の質的価値は、地元の価値を活かす人財によって、向上して行くものであることから、これからも多くのメンバーが出向を経験し、活力溢れる人財として、地域の質的価値を創造していただきたいと願っております。

『事業報告』

志産地生委員会

委員長　森澤　將司

〔スローガン〕高い志と自己肯定感を育む

「高い志と自己肯定感を育む」ために必要な学びは何か。２０２１年度呉青年会議所の基本方針の一つである「呉市民に対して『呉市への愛着』を持たせる」目的を達成するには、自己肯定感を軸に学べる場を提供する必要があると考え事業構築を行った。仮説として「高い自己肯定感」を育み、今の自身が置かれている環境を肯定することが出来れば、地域を肯定的に捉えることが出来る。すなわち「呉市への愛着」が生まれると考えた。神田理事長のスローガンである「虎穴虎子」のもと、新たな試みも取り入れ事業構築も共に考えた１年間だった。

まず始めに、自己肯定感を育む必要性・育む技術の模索・習得・継承を行った。担当例会では、自己肯定感を上げるには挑戦し褒めることの大切さを周知した。志産地生委員会メンバー全員に「褒める達人検定３級」を習得させ、褒めるコツ、褒める定義「新しい価値を発見する」の説明を行い呉青年会議所メンバー全員に褒める達人になる指導を行った。

これらの技術を習得した呉青年会議所メンバーがと共に実施した志産地生創造事業は、参加者に多くの挑戦する場を提供し「新しい価値」への気づき、子どもを囲む大人たちが皆、子どもを褒め称え、高い自己肯定感を育むことが出来た。また、高い自己肯定感を育んだ参加者に呉の魅力を多く伝えることで「呉っていいね。」と言い合える関係性を醸成することが出来た。子どもがそれぞれの「一歩」に挑戦し、周囲には温かく応援・褒めてくれる大人がいる。大人からすると、小さな「一歩」の挑戦かもしれないが、子どもにとって貴重な学びの場になった。

最後になりますが、木内副理事長、三戸室長、これまで私のわがままに付き合って頂き本当にありがとうございました。また、ずっと背中を支え続けてくれた森副委員長、委員会メンバーの皆様、こんな委員長について来て下さりありがとうございました。この１回しかない１年しかない貴重な委員長経験を、今後の呉青年会議所活動の発展のために活かして行こうと思う。

事業報告

１．事業名：３月担当例会

日　時：２０２１年　３月　１日（月）

１９：５０～２０：２５

場　所：クレイトンベイホテル３階　天の間

ＺＯＯＭ開催

協力団体：なし

事業概要（方法）：当委員会が行う今年度の事業概要及び目的の周知をするため、下記の通り執り行った。

１）事業概要及び目的、基本方針、年間事業計画を説明したのち、高い自己肯定感の持せ方、自己愛との違いを発表した。

２）当委員会の考える愛着が湧くまでのストーリーをＰＰで説明したのち、動画を流し「褒める」ことの重要性を発表した。

３）ブロック野球大会の日程、会場をＰＰで説明したのち、呉ＪＣオリジナルの掛け声を発表した。

４）委員長挨拶を行なった。

検証方法と効果：１）検証方法

例会後ＷＥＢアンケートにより、志産地生委員会の事業目的と基本方針を理解して頂くことが出来ましたかという点において、例会参加メンバーに回答をしてもらった。結果、理解できたと回答した方が９２．７％だった。

２）効果

アンケート結果９０％以上の理解と共感ができていることから、当委員会が考える基本方針、愛着までのストーリーをメンバーのほとんどが理解したと考える。

動画を作成したが、内容をもっと精査し、コンパクトに作成するべきだった。動画を長く作り過ぎてしまい、時間を押してしまったのがもっとも反省すべき点だった。

２．事業名：５月担当例会

日　時：２０２１年　5月１０日（月）

１９：４２～２０：４３

場　所：ＺＯＯＭ開催

協力団体：なし

事業概要（方法）：当委員会が行う事業を円滑に運営するため、会員に対し事業の周知を行うため、下記の通り執り行った。

１）ＺＯＯＭで担当例会を行った。

２）３月例会で発表した事業目的を、より深く理解を求めるため再度説明を行った。

３）当委員会が定義付けた「褒める」から愛着まで繋がるストーリーの説明を行った。

４）主になぜ褒めることで愛着が湧くのかを説明した。当委員会が定義つけた「褒める」とは「価値を発見する」説明し、呉青年会議所メンバーに褒める達人になってもらうべく褒めるためのグループディスカッションをＺＯＯＭ内で行った。

５）ブロック野球大会に協力してもらうため、現状の呉青年会議所メンバー全ての方に協力をしてもらわないと運営が難しいという問題点と、呉青年会議所が他ＬＯＭから期待されていることをパワーポイントで説明を行った。

６）委員長挨拶を行なった。

検証方法と効果：１）検証方法

例会後ＷＥＢアンケートにより、Ｑ２「褒めることの重要性を理解できましたか。」、Ｑ３「当委員会が定義付けた「褒める」を理解して頂けましたか。」について例会参加メンバーに回答をしてもらった。結果、Ｑ２に関しては１００％、Ｑ３に関しては９６，９％だった。

２）効果

アンケート結果のＱ１、Ｑ２が９６％以上の理解と共感ができていることから、多くの呉青年会議所メンバーの理解を得られたと考える。これにより、褒めることの大切さを理解できた呉青年会議所メンバーが多く、当委員会事業１で多くの「褒める」環境が醸成出来た。

新型コロナ感染拡大防止集中対策　ステージ３、ステージ４であったとしてもＡＬＬ　ＺＯＯＭを実施し、工夫さえすれば会

場を設けずとも、担当例会が出来ることを実証した。また、ＡＬＬ　ＺＯＯＭでもＺＯＯＭ機能「ブレイクアウトルーム」を使用することでグループディスカッションが問題なくできることを実証した。

３．事業名：８月担当例会（公益目的事業　セミナー事業）

日　時：２０２１年　８月　２日（月）

１９：５０～２０：５０

場　所：クレイトンベイホテル３階　天の間

ＺＯＯＭ開催

協力団体：なし

事業概要（方法）：当委員会が行う事業を円滑に運営するため、会員に対し事業の周知を行うため、下記の通り執り行った。

１）褒める定義の再認識をメンバーとした後、事業概要及び目的を説明した。

２）志産地生創造事業１の事業内容及び、各委員会の役割発表を行なった。

３）志産地生創造事業２の背景、目的を発表した。

４）委員長挨拶を行なった。

検証方法と効果：１）検証方法

例会後ＷＥＢアンケートにより、Ｑ２「「ＣａｎＰｌｕｓ～出来た喜びをさらにプラス～」のご自身の役割について理解していただけましたか」、Ｑ３「志産地生創造事業１「「ＣａｎＰｌｕｓ～出来た喜びをさらにプラス～」にご協力いただけますか。」について例会参加メンバーに回答をしてもらった。結果、Ｑ２に関しては９５，５%、Ｑ３に関しては９５，５%だった。

２）効果

アンケート結果Ｑ２が９０％以上の理解ができていることから、志産地生創造事業１「ＣａｎＰｌｕｓ～出来た喜びをさらにプラス～」の各役割をほとんどのメンバーが理解したと考える。また、当日参加者を褒めることが出来ると考える。

アンケート結果Ｑ３が９０％以上の回答率を得たことから、志産地生創造事業１「ＣａｎＰｌｕｓ～出来た喜びをさらにプラス～」に対して多くのメンバーから協力を得ることが出来ると考える。

志産地生創造事業１「ＣａｎＰｌｕｓ～出来た喜びをさらにプラス～」の趣旨、楽しさ、褒めることの重要性の再認識をし、呉青年会議所一丸で事業を成功させようという意思にすることが出来た。

４．事業名：志産地生創造事業１（公益目的事業　地域魅力再度発見事業）
「ＣａｎＰｌｕｓ～出来た喜びをさらにプラス～」

日　時：２０２１年１０月　２日（土）１３：００
～１０月　３日（日）１１：００

場　所：野呂山キャンプ場

協力団体：ＳＨＩＮＯ　シェフ　篠崎誠則氏

事業概要（方法）：大人達が子どもを褒め称える場を提供し、さらに高い自己肯定感を育むため、下記の通り執り行った。

１）事前説明会

・７組ＺＯＯＭにて行った。（内１組は会場にてＺＯＯＭ参加）１組は録画動画を閲覧してもらった。

・参加者に事業目的、高い自己肯定感を持つメリット、自己肯定感を高める方法、褒めるコツ、新型コロナ感染拡大防止への対策の流れで説明を行った。

・しおりを渡し、事業当日までに復習し、「子どもへの課題」提出の説明を行った。

２）ＣａｎＰｌｕｓ～出来た喜びをさらにプラス～

小学生の子どもを持つ家族８組を募集し、野呂山キャンプ場にて「褒めて自己肯定感を上げる」を目的としたキャンプを開催した。褒めて自己肯定感を上げるために、子どもにＰｌｕｓミッションⅠ～Ⅷを設え様々な挑戦する場を与え、大人に子どもの新しい価値の発見をさせ、褒め称える場を提供した。

検証方法と効果：１）検証方法

事前説明会で子どもに対して出す「自分のいいところ」を記載する課題と、事業最後で行われるＰｌｕｓミッションⅧの課題を比較し、より多くの記載をしてもらうことを１００％目指し、参加者の子どもに記載してもらった。結果、自身の好きなところが事業前と事業後を比べ多くなっているため、１００％達成することが出来た。

２）効果

①事前説明会

・事前に事業目的を理解してもらえたことにより、大人は褒めることに抵抗なく、子どもをたくさん褒めている姿を確認することが出来た。

・延期を２回したが、参加者のモチベーションを下げることなく参加減少率を最小限に抑えることが出来たと考える。

・ＺＯＯＭを活用した事前説明会は参加者が集まりやすく、録画もできデータとして残せることは、事前説明会に参加出来ない方たちに好評だった。また、次年度に引継ぐものとしても有効だと考える。

②ＣａｎＰｌｕｓ～出来た喜びをさらにプラス～

・アンケート結果からもわかる通り、参加者の親は子どもが挑戦することにより、褒めることが出来、子どもの新しい価値を発見することが出来たと考える。また、子どもの自己肯定感を上げ方、褒め方も理解して貰えた。

③広報戦略

広報戦略についてＣａｎＰｌｕｓは子どもが行きたいと思っていただくことではなく、親が子どもを連れていきたいと思っていただくように広報を行った。広告媒体を親の目を引くデザインとし、小学生の子どもを持つ呉に住む３０代から４０代のイ

ンスタグラマーに広報をお願いすることで効果的に広報を行うことが出来き、多くの応募数を得ることが出来た。今回の事業では募集組数が少なかったものの多くの募集をする場合は広報スケジュールを念密にし、公募期間を長くとることで応募者数は増加する。事業のターゲット、誰に伝えたいのかを明確にすることで今後もＳＮＳの広報は有効的だと考える。また、広告媒体をＳＮＳのみで活用したことは広告制作費、印刷費削減に繋げることが出来る。

５．事業名：志産地生創造事業２（公益目的事業　地域魅力再度発見事業）
「呉を冒険メガすごろく」
日　時：２０２１年１１月　７日（日）
９：２０～１５：２０
場　所：呉市中央公園
協力団体：呉市役所　企画課
事業概要（方法）：親子や仲間同士で呉の魅力を語り、まちを誇れる関係を育むため、下記の通り執り行った。
ライフスタイルの変化によってスマートフォンアプリ、ＳＮＳ、Ｙ

ｏｕＴｕｂｅといったツールを自宅で楽しむ時間が主となっている。そして、コロナ禍によりさらに拍車がかかった。その結果、外に出て地域の魅力、歴史に触れる機会が少なくなり、家族や仲間と呉のまちの事を考え語る場が減ることで呉への愛着が薄れていく一方である。この問題を解決するために、屋外、室内問わず親子や仲間同士で楽しく呉の魅力を学ぶ場が必要だと考えた。そのため、挑戦する場を設え「褒める」から「自己肯定感」が向上した参加者を作り、呉の魅力を伝えることで「呉っていいね」と言い合える関係性を醸成するための志産生創造事業「呉を冒険メガすごろく」を考えた。呉の魅力は呉市にある企業、歴史、文化、観光名所、食、と位置づけ素材を集めた。その中でなかなか子どもの頃に知ることが出来ない呉市の企業に着目した。企業選定は呉オンリーワン・ナンバーワン企業を主軸とした。また、新型コロナ感染の影響を受けずに子どもが楽しく主体的に呉の魅力を学べる「呉氏と呉を冒険すごろく」を作成し、呉を冒険メガすごろくの最後に「呉氏と呉を冒険すごろく」の配布を行った。

検証方法と効果：１）検証方法

「呉を冒険メガすごろく」を実際に体験した参加者にアンケートを実施した。結果、親子、仲間で呉の魅力について語ることが出来たという回答が１００％だった。

２）効果

・呉を冒険メガすごろくの中にも企業ブースを設え、参加者が普段知ることの出来ない呉の魅力を十二分に発揮することが出来た。参加者全員からは「子どもと呉について語ることが出来た。」、「呉をさらに好きになった。」という回答も多く頂いた。協賛の協力をして頂いた企業からも、「いい協賛が出来た。」、「協賛をして良かった。」、「目的通りに自己肯定感を上げて、呉について語る親子、仲間を作ることが出来ましたね。」と声をかけてもらうことが多かった。理由は実際に協賛してくれた企業の従業員さんが「呉を冒険メガすごろく」に多く参加しており、呉青年会議所活動が素晴らしく呉の子どもの未来をしっかりと考えてくれている。自社を誇りに思いました。など自己肯定感が高い意見を頂いたと報告を受けた。

・参加者と呉青年会議所メンバーが密にコミュニケーションを取る機会を多く設けた。呉青年会議所のメンバーがどんな志を持ち、まち作りに挑戦しているか、どんな人たちが在籍して

いるのかを知ってもらうことで「呉青年会議所が呉の魅力だ。」、「呉青年会議所の方々の人柄が素晴らしい。」、「将来呉青年会議所に入り、私もこの様なまち作りをしたい。」など多くのありがたい言葉をアンケートにて頂いた。これらを踏まえ、参加者に対しても、呉の特定の企業ではあるが、呉青年会議所のファンになってもらいブランディングが出来たと考える。

『事業報告』

レジリエンスシティ委員会
委員長　髙村　涼

〔スローガン〕　最善を考え、最悪に備える

私はこのまちに生まれ、このまちで育ってきた。そんなまちが大雨災害により甚大な被害をうけ、多くの尊い命が失われた事があった。いまだに当時の爪痕が大きく残る中、私に課せられたミッション「脅威への備え」は、復興にむけ大きく踏み出した今だからこそ必要だと考え、最善を考え、最悪に備えるというスローガンのもと一年間活動してまいりました。

まず私が考えたのが、未曾有の災害が世界的に問題視される中、これを解決に向かうには産官学民の力を結集し、それぞれの立場でそれぞれの課題をそれぞれが共有し解決していく、その中でも若者が中心となり、求心力のある大人と融合しレジリエンスなまちになること。有事の際、「情報」「行動」「判断」の分野で体験や学びを通し、若者が中心となり避難や救助に動けることが大事だと考えた。そこで当委員会では、学生ボランティアを募集し、若者である学生が協議会を開催し、体験や研究をする中でより良い啓発や、より良い「脅威への備え」を考え求心力のある大人へ伝播し、レジリエンスなまちにしていく事が出来たと考えます。

当初は防災フェスを実施し、学生たちに参加者に対してアウトプットしていただく、市民に対し啓発していただく機会を設けたが、緊急事態宣言下という事もあり中止となったが、最終的には啓発の為の３Ｄマップや啓発パネルを完成させ寄贈しました。

備えることに備えすぎはなく、場所や地域、災害の種類によりその備えは大きく変わってきます。常日頃から、災害に対しイメージし準備しておけば、被害は最小限に抑えられ、まち全体が強く大きくなると考え今後もレジリエンスなまちへの活動が継続されることが必要だと感じました。

事業報告

１．事業名：３月担当例会

日　時：２０２１年　３月　１日（月）

２０：２５～２０：５０

場　所：クレイトンベイホテル３階　天の間

ＺＯＯM配信

協力団体：なし

事業概要（方法）：当委員会の年間の事業方針について周知いただくため例会を開催した。

１）様々な災害についての動画を流した。

２）グループ毎に自分たちの周りに存在する脅威とは何か、その脅威に関しどこがどのように脅威なのか、そしてその脅威に対しどのような備えが必要かグループディスカッションを行なった。

３）基本方針についてＰＰを使用して発表した。

４）年間事業計画についてＰＰを使用して発表した、

５）委員長挨拶を行なった。

６）室長挨拶を行なった。

検証方法と効果：１）検証結果

・アンケート結果から、基本方針及び年間事業計画を理解していただけたメンバーが１００％にならなかった部分は、最終的な落としどころの面で理解をしてもらう部分が不十分だったと考える。

・「脅威とは何か。その脅威への備えとは。」のアンケート結果に対しては、グループディスカッションでも洗い出しをしていたので、再度同じ問いになってしまった部分で回答数が７５％という結果になったので、今後はアンケート内容をしっかりと精査することが必要。しかしながら、身近な脅威とは何なのか考え、それに対する備えるという意識を持ち、どう備えればいいかという結論を導き出す工程については今後の事業における脅威への備えに対し意識を高める一助となったと考える。

２）効果

ＺＯＯM配信をすることにより、当日会場での参加が難しいメンバーにも、例会内容の周知や担当例会プログラムへの参

加機会を提供できた。また脅威とはなにか、脅威に対しどう対処すべきか考えるきっかけとしていただけた。

２．事業名：７月担当例会（公益目的事業　セミナー事業）

日　時：２０２１年　７月　５日（月）

１９：５０～２０：５０

場　所：クレイトンベイホテル３階　天の間

ＺＯＯＭ配信

協力団体：ひろしま女性防災会　横山ゆかり氏

事業概要（方法）：事業への協力依頼と、事業の必要性「脅威への備え」について講師例会を開催した。

１）司会より進行と講師の説明をした。

２）講師がＺＯＯＭにて講演を行った。

３）ＰＰを使用して担当事業の説明及び協力依頼を行った。

４）委員長挨拶を行なった。

５）室長挨拶を行なった。

検証方法と効果：１）検証結果

・我々が考える防災活動において、若者世代の重要性を認識していただくきっかけになる横山氏の講演で、９０％を超えるメンバーから、「考えるきっかけになった」、「認識できた」という回答が得られた。また、脅威に対する備え「防災」がいかに重要かの認識も９４％と、災害を経験している我々メンバーだからこその高い水準となった。

・脅威への備えに対し、前述したアンケート結果とは反し「備え」に関してはこれから始めようと思った方の割合が８８％となっており、まだまだ脅威への備えの重要性は理解していても、「備える」といったところまで至っていない現状が確認

できた。これは、メンバーのみならず呉市民に対しても同程度と考えられる。

・当委員会が行う事業の方針と内容については「できた」「少しできた」で１００％となり、これからの事業でより「備え」に対し能動的に実際に「備えた」までもっていくことが必要だと認識できた。

２）効果

ＺＯＯＭ配信をすることにより、当日会場での参加が難しいメンバーにも、例会内容の周知や担当例会プログラムへの参加機会を提供できました。また、防災に若い世代がいかに重要かなど、防災の必要性を考えるきっかけとしていただけました。これをきっかけに、若者が中心となり災害に備えるための事業の事業内容について周知し、協力を仰ぎました。

３．事業名：若者が中心となり災害に備えるための事業（公益目的事業　セミナー事業）
「君がまちの防災ＨＥＲＯ!!!　～体験して感じる命を守る大切なこと～」

日　時：２０２１年　７月２５日　～　２０２１年１２月１１日

場　所：呉市内各所にて

協力団体：呉市、呉市消防局、呉市社会福祉協議会、呉昭和自主防災協議会連合会、ひろしま女性防災会、国立呉工業高等専門学校

事業概要（方法）：情報・行動・判断の分野で、若者である学生との協議会を実施し体験や座学による学びを得てもらう

【第１回ボランティア協議会】

顔合わせ、事業の説明を実施

【第２回ボランティア協議会】

ひろしま女性防災会 横山氏 による「いのちを守る。暮らし術・備え術！」においてＺＯＯＭにて実施

【第３回ボランティア協議会】

コワーキングスペースにて防災啓発用パネルの下書き作成を実施

【第４回ボランティア協議会】

呉市社会福祉協議会様、呉昭和自主防災協議会連合会様の協力のもと、発災箇所の現地視察と座学により災害発生時の状況などを実施

【第５回ボランティア協議会】

呉市消防局広支局にて様々な脅威について体験し、ＤＶＤにて学習を実施

【第６回ボランティア協議会】

コワーキングスペースにて防災啓発用パネルの作成を実施

【防災啓発用製作物寄贈式】

呉市社会福祉協議会様にて寄贈式を実施し、呉昭和自主防災協議会連合会様へ製作物を寄贈しました。

①産・官・学・民で事業を構成し、各団体にて体験型や座学などにより脅威を肌で直接的に感じてもらい、他人事ではなく自分事として考える機会を提供した。

②ボランティアと６回の協議会を設け、その協議会の中で脅威への備えに対し学習や体験ができる機会を設けた。

③呉市民に対し広く非常用防災バッグの備えを啓発し、非常用防災バッグを備えの一歩として気軽に備えてもらい、備える物や今後備えることの重要性を考えるきっかけとして配布した。

④呉市民に「脅威への備え」について広く啓発できるよう、呉工業高等専門学校様と３Ｄ模型の製作を実施し「土砂災害視覚化模型」の製作を行った。

【非常用持ち出しバッグを記念品として配布】

①市民への啓発を兼ね持ち出しバッグの配布を実施

非常用持ち出しバッグを広く市民に常備していただくため、チラシや当団体ＳＮＳにて希望者を募り配送した。なお、中身においては十分な装備にせず、市民が自ら考え必要なものを追加装備する手法とし、脅威に対し自分事として考え備える機会を提供した。また追加したほうが良い非常用持ち出しバッグの中身においては、呉市や社会福祉協議会様と事前に協議し、自分たちで脅威への備えのために追加する物品の提案資料を付属した。

数量限定にて防災ＨＥＲＯ缶バッジ（光に反射するホログラム仕様）を合計１５０個付属した。

②協議会に参加していただいた学生ボランティアには、呉氏コラボマスクと非常用持ち出しバッグの配布を行った。

検証方法と効果：アンケートを実施し、全体的に「高まった」や「学びがあった」の回答だったが、もう少し専門的な分野も盛り込み調査・研究の協議会もあってよかったのではという意見もあり、自分たちで考える部分がもっと必要だったと感じた。全体での実施を考えてやっていた部分も、グループごとに分かれて別日での開催も調整すると専門的に学びたい部分をしっかり学んで頂ける時間もできたと考える。

ボランティアが合計６回の協議会にて脅威に対する備えの重要性と、決して無駄ではない備えの意識を高められた。また、体験することにより、危険かそうでないかの判断力や、有事の際の行動力を養うことができた。また、学生と脅威への備えに対し連携・共有し、当委員会とどのように脅威への備えをしたらより効果が出るか、どうすれば「備える」意識を高められるかをボランティアの目線で共に考え協議することにより、より深く脅威とその備えについて向き合い、学生も今後の脅威に対する意識を高めるきっかけとなった。また、能動的な市民を代表し、自分事として脅威について体験と学びを得ていただくことで、災害リスクに対し行動力と発信力のある若者が中心となり脅威に対応できるまちに向けた一助となった。

『事業報告』

とにかく明るい委員会
委員長　志々田　裕介

〔スローガン〕みんなでやれば何でも楽しい

新年度が始まる前の２０２０年９月、委員長予定者の段階で既に新型コロナウイルスの脅威は大きく、拡大アカデミー活動をどのように実施すればいいのか、実施できるのか非常に苦悩した。しかし、２０１８年の西日本豪雨災害の復旧やその後の復興、暗い話題の多い呉のまちで、懸命に、とにかく明るく前向きに活動してきた呉青年会議所メンバーの姿を思い出し、感染症は適切に恐れ、しっかりと前を向いて活動していく決意を固めた。入会候補者に入会のメリットや会の魅力を伝えるためには、やはり面談に勝る方法は無いと考え、パーテーションのある店舗での食事を取りながら多くの面談を実施した。たくさんの人と話し、悩みを聞いたり、逆に自身をさらけ出すことで、青年会議所への愛着や、自分なりの青年会議所の意味を持つことができるようになった。

会員全員で明るく前向きに取組む拡大活動を行なった結果、委員会単体では決して成し得ることのできない人数の仮入会員を獲得することができた。

仮入会員に青年会議所活動の一端を体験してもらうために、緊張感を持った空気を作った「入会候補者面接」、また、仮入会員が少しでも成長し、青年会議所の面白さ、仲間の大切さ、呉のまちの問題解決の意識に気付いてもらえるよう、度重なる仮入会員会議やセミナーⅠ、セミナーⅡを実施した。

活動にあたっては、現役メンバーだけでなく、諸先輩方の温かい声掛けや協力により、一人ではできない大きな力が発揮できたと感じる。残念ながら、入会者人数、女性会員増加人数とも目標の数値には届かない結果とはなったが、一生に一度の青年会議所の委員長を、後悔の無いように行なうことができた。

このような不安な状況の中で、青年会議所の門を叩き、時には悩んだり、意見がぶつかりながらもしっかりと前に進み、成長してくれた仮入会員１８名にも敬意を表したい。

事業報告

１．事業名：２０２１年度会員拡大方針

日　時：２０２０年１１月２７日～２０２１年１２月３１日

場　所：適宜

協力団体：なし

事業概要（方法）：会員が「全員で」「明るく」「前向きに」拡大活動が行なえるように、拡大活動の環境を整備し、拡大活動を後押しする事業を展開した。

①過去の推進情報の整理を行なった。私的、ビジネスの関係から、自身は推進できないが、候補者情報となるライトインフォメーションリストを新設した。

②現役メンバーが全員参加する拡大専用ＬＩＮＥグループを作成し、候補者情報、推進の進捗報告を随時収集できる環境を整備した。

③現役メンバーを３人１グループの１７グループに分け、各グループで推進活動を実施する会員全員拡大事業「三本の矢」を実施した。情報提供、面談や申込書受付など、各推進項目に得点を設定し、推進活動後にその内容を拡大専用ＬＩＮＥで報告することで、そのグループに得点を付与し、定期的に各グループの得点を発表することで、競争による拡大活動の意識を鼓舞した。苦手意識の高い拡大活動を強制的にやらされるという雰囲気を感じさせないよう、ゲーム性や世界観を前面に押し出した内容とした。

検証方法と効果：拡大活動は、断られることや嫌われることの懸念を抱いてしまい、最初の一歩が出にくい活動である。１人では尻込みしてしまう活動も、３人のメンバーが集まれば不安は無くなり、かつグループ同士が競い合うことで、自身が何よりも変革したかった「メンバーの拡大に対する苦手意識」を変えることができた。結果として、５４名のライトインフォメーション、３７名の入会候補者情報、３６名への面談、１８名の仮入会員を受け入れることができた。

２．事業名：２月担当例会

日　時：２０２１年　２月　１日（月）

１９：５０～２０：５０

場　所：クレイトンベイホテル３階　天の間

ＺＯＯＭ配信

協力団体：なし

事業概要（方法）：会員全員が拡大の意識を高めるために例会を開催した。

①委員長が自身の考える拡大の必要性についてスピーチを行なった。

②拡大活動を行なわない場合、数年で会員は半減してしまうことをプレゼンテーションで伝え、メンバーと危機感を共有した。

③会員全員拡大事業「三本の矢」の内容の周知を行なった。

④拡大活動を行なうグループで入会候補者となる対象者の抽出と、今後の拡大活動をどのように行なうかを話し合うグループワークを行なった。

⑤入会候補者への推進活動や、青年会議所を良く知らない仮入会員と接する時の注意点を寸劇で周知した。

検証方法と効果：例会では担当委員会が伝えたい内容が周知されているかを会員に対してのアンケートで実施することが多いが、新たな試みとして、拡大の意識が高まったメンバーは、例会後退室の際に担当委員長と肘タッチをするという内容で実施した。結果として、拡大の必要性や危機感を理解してもらい、意識が高まった際に具体的にどのように拡大活動を行なうかも示すことで、会員全員が前向きに「やるしかない！！」という意識を持つことができた。

３．事業名：入会候補者面接

事業概要：入会候補者が呉青年会議所に相応しい品格のある青年かを問う

日　時：２０２１年　２月２５日（木）１９：００～２０：２３

　　２０２１年　３月１７日（水）１９：００～２０：１７

場　所：クレイトンベイホテル３階　花の間

　　ＺＯＯＭ配信

協力団体：なし

事業概要（方法）：拡大推進活動により入会申込書を提出した入会候補者が、呉青年会議所に相応しいかを審査するため、各候補者で３分間のスピーチ及び質疑応答を行なった。テーマはあえて自由とし、人前で喋るために自身を振り返ったり、今後のことを考える、青年会議所をきっかけとして時間を作ることを伝えた。青年会議所のオンとオフを知ってもらうため、司会、設営メンバーおよび現役メンバーには、緊張感のある雰囲気で臨むことを依頼し、入会候補者に一種威圧感を与える雰囲気作りを行ない、面接後は入会候補者に温かい声掛け、この雰囲気作りがあえて実施したものであることを伝えた。現役メンバーには新たな仲間となる入会候補者の顔と人柄を周知するために、ＺＯＯＭでのＷＥＢ参加も可能とした。

検証方法と効果：一種異様な雰囲気や緊張感の中で実施することで、入会候補者からは「今まで経験したことが無い程緊張した。」「自身の半生や、自身が青年会議所活動を通して何を行ないたいのかを考えるきっかけとなった。」という意見を得た。新型コロナウイルスの感染防止のため、マスクを付けての実施ではあったが、入会候補者の顔を現役メンバーに周知するために、スクリーンに候補者の顔やプロフィールを映し、候補者は透明のマウスシールドを着用してスピーチを行なった。結果として、実施後に入会候補者の顔と名前が一致しているかを現役メンバーに質問したところ、全員が周知できていることが確認できた。

４．事業名：仮入会員セミナーⅠ

日　時：２０２１年　４月１７日（土）１２：００
　　～２０２１年　４月１８日（日）１０：４０

場　所：県民の浜、下蒲刈島

協力団体：神應院　徒弟　藤坂　正光　氏

事業概要（方法）：入会候補者面接を通過した仮入会員が、青年会議所について学び、また、本年度の同期仮入会員との関係を醸成するために１泊２日でセミナーを実施した。

①県民の浜イベントホールにて、仮入会員及び現役メンバーを４人１グループに分け、各グループでお互いの顔をスケッチするアイスブレイクを行なった。描いたスケッチと、モデルの印象をお互いに発表した。

②担当委員長が講師となり、ＪＣ用語や基礎知識を学ぶ座学を実施した。

③過年度の呉青年会議所の委員長およびスタッフが、自身が行なった事業の目的、背景、手法や委員会運営のエピソードを発表した。

④コテージ梶ヶ浜から下蒲刈を一周するサイクリングを実施した。チェックポイントでは、それぞれが「今までで一番恥ずかしかっ

たことを海に向かって叫ぶ」アトラクションを実施した。

⑤仮入会員が、サイクリング中に感じた下蒲刈の魅力や課題から、下蒲刈を盛り上げるための仮想事業を現役メンバーにプレゼンテーションした。

⑥仮入会員と現役メンバーで懇親会を実施した。

⑦Ｂ＆Ｇホール２階にて、神應院の徒弟である藤坂正光氏から座禅の方法を説明の後、同氏が警策を行なうもとで座禅体験を実施した。

検証方法と効果：一種幼稚ではあるが、お互いの顔をスケッチすることで、１泊２日間同じグループとなる同期仮入会員の人柄、顔を認識することができた。また、サイクリングについても、グループで離れずに同じ空間を一緒に過ごし、山を登る上級者コースではグループメンバー同士が助け合うことで、関係を醸成できた。

青年会議所が単なるイベント団体ではなく、まちの問題点や課題を見つけ、それを解決するために事業を行なう団体であることを周知するため、座学や過去の事業についての経験談を聞く機会を提供し、サイクリング後のプレゼンテーションで青年会議所の事業構築を模擬体験することができた。

結果として、同期仮入会員の関係は醸成され、その後の会議や情報交換は活発に行なわれ、呉青年会議所を盛り上げる仮入会員となった。

５．事業名：仮入会員セミナーⅡ

日　時：２０２１年　7月　3日（土）

９：４５～２１：２０

場　所：ＩＨＩアリーナ呉、呉文化ビル、呉市内各所

協力団体：日本ＪＣ公認トレーナー「ＣＣ」　新谷　大輔氏

事業概要（方法）：仮入会員が現役メンバーとの関係を強化し、青年会議所活動を知るためにセミナーを実施した。

①仮入会員と現役メンバーが混合のグループとなり、しっかりと目的を持って活動することの重要性と、その行動力を向上させる意識を高めるため、ＪＣＩ　ＪＡＰＡＮ公認プログラム「ＣＣ」を実施した。

②事前に「呉を深く知ること」のテーマに沿った資料（呉に関連した書物、新聞記事の切り抜き、インターネット上の情報、官公庁や呉市の参考データ）を配布し、グループ毎でそれらを読み込んでから、まち歩きを行ない、各チェックポイントでその内容を体験、実感することで、より呉を知ることができる「ＪＣＩ呉シティロゲイニング」を実施した。題材については「坂のまち呉」「戦艦大和のまち」「製造業のまち」の３つとし、それぞれの歴史や問題点、今後の課題について周知し、考えられるものとした。

③各グループ毎にＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使用して「ＪＣＩ呉シティロゲイニング」中に学んだことや考えたことをプレゼンテーションした。

④空き店舗である元居酒屋を装飾し、懇親会を実施した。仮入会員および現役メンバーの顔とプロフィールを記載した「お品書き」を作成し、定期的に席を移動することで、多くのメンバーと交流が図れるように設えた。

検証方法と効果：仮入会員と現役メンバーの関係を強化することで、青年会議所の魅力である人とのつながりの大切さを感じてもらうために実施した。行動力を向上させる意識を高め、実際に積極的に関係づくりに自分から動ける環境を作り、長時間まち歩きで同じ時間を過ごすことで様々な話をし、関係が強化できた。また、青年会議所の活動意義である、まちの問題を解決することについても、現役メンバーの豊富な知識と経験を伝えながらまち歩きを実施し、プレゼンテーションについても助言を得ながら実施することで、仮入会員も成長することができた。懇親会はしっかりと発表を行なった仮入会員を労うとともに、現役メンバーと更に深く話す機会となり、その後の活動や仕事についてもアドバ

イスをもらったり、プライベートでも一緒に過ごす関係ができた。

６．事業名：１０月担当例会

日　時：２０２１年１０月　４日（月）

１８：５０～１９：５０

場　所：クレイトンベイホテル３階　天の間

ＺＯＯＭ配信

協力団体：なし

事業概要（方法）：新たな仲間となる仮入会員が仮入会員期間で学んだこと、醸成した関係を発表するために例会を行なった。

①仮入会員期間の６ヶ月間で実施した仮入会員会議にて、自分たちの考えた呉の問題点を解決する仮想事業を構築し、その内容についての寸劇、プレゼンテーションを行なった。

②理事長より各仮入会員にＪＣバッジを授与するバッジ授与式を行なった。

③新入会員の同期会会長より同期新入会員がどのように呉青年会議所で活動していくかの決意表明を含めた挨拶を行なった。

検証方法と効果：１０月担当例会を行なうために、６ヶ月間の長期にわたって全１５回の会議、数度の例会発表についての打合せやリハーサルを実施した。青年会議所活動がまちの問題を解決するための事業を行なう団体で

あることを周知するため、会議は深夜に及ぶこともあった。仮想事業や例会の発表についても、何度も振り出しに戻ったり、内容が修正され、仮入会員自身も悩むことがあったが、同期仮入会員で支え合いながら仮想事業を構築することができた。寸劇やプレゼンテーションの言葉選びに至る細部までこだわり、準備にはしっかりと時間をかけたことから、経験豊かな現役メンバーに仮想事業の内容や団結した姿をしっかりとアピールすることができた。

『事業報告』

君に届け！！！広報委員会
委員長　坂本　治人

〔スローガン〕情報伝達の吟醸化

何のために広報活動をするのか。
委員長の職をお預かりする際に何度も自問自答をして、ひとつの答えを導き出した。
『呉青年会議所の一員になってくれる方、また明るい豊かな呉のまちにするために協力してくれる方を増やすため』
今年度はこの最終的なビジョンを見据えながら、「呉青年会議所に興味を持ってもらう」ことを当委員会のゴールに設定し、誰に伝えるのか、何を伝えるのか、どう感じて欲しいのかといった目標を明確にし、吟醸化された情報を届ける広報活動を行ってきた。

まずハード面の吟醸化として、既存の広報ツール（ｆａｃｅｂｏｏｋ、Ｉｎｓｔａｇｒａｍ、Ｔｗｉｔｔｅｒ）の他に、公式ＬＩＮＥアカウントと公式ＹｏｕＴｕｂｅチャンネルを追加した。これにより埋もれることなく情報を届けることができ、視覚的な情報も追加されたことで、分かりやすく伝えるための新たな仕組みを構築することができた。

次にソフト面の吟醸化では発信する内容を〈内の情報〉と〈外の情報〉に分けた。
内の情報とは呉青年会議所に関する情報のことを指し、現役会員がＪＣに関する本音を話す紹介動画を毎月公開した。２０２１年度へのホームページ更新についても、呉のまちの発展と当団体の歩みがどのように関連しているのかの年表を作成したり、過去行ってきた事業の紹介ページを詳細に作り直した。また、入会案内のページも目を引くような内容に改変した。
外の情報とは逆に呉青年会議所以外の情報のことを指し、呉市民の興味を惹きやすい生活に密接した呉市の飲食店の紹介や、桜・紅葉のスポット等、食・景色に特化した呉市の魅力情報を定期的に発信した。
この内と外の両方の情報を発信することで、一見閉鎖的で近寄りがたいイメージの呉青年会議所に少しでも興味を持って頂くきっかけになったと考える。

結びに、私が１年を通してやりたいことを全て実行できるように御尽力頂いた高橋副理事長、平岡室長をはじめ、当委員会の吉村副委員長、神田幹事、委員会メンバーの皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。

事業報告

１．事業名：事業計画書・会員手帳作成事業

日　時：適宜の日時（２０２１年　１月）

場　所：適宜の場所

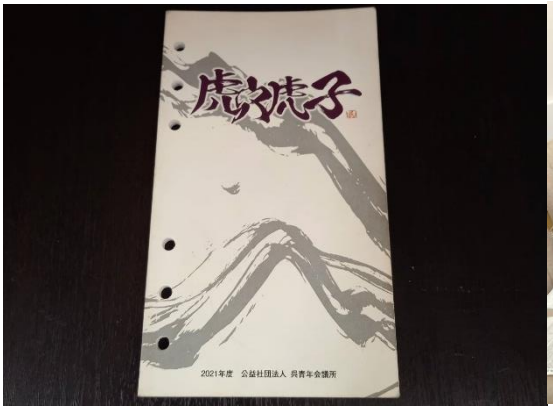
協力団体：なし

事業概要（方法）：１）事業計画書を作成し、関係各所３７カ所へ配布した。

２）会員手帳を作成し、現役・特別会員をはじめ関係各所へ計３５９部を配布した。

検証方法と効果　：１）事業計画書を関係各所へ配布することで２０２１年度の方針や事業計画を知っていただく機会となった。

２）会員手帳を配布することで会員相互の交流や、特別会員との交流のきっかけになった。



２．事業名：ホームページ更新事業

日　時：２０２１年　１月　１日～２０２１年１２月３１日

場　所：適宜の場所

協力団体：なし

事業概要（方法）：<u>＜２０２１年度版への移行について＞</u>

トップページにＩｎｓｔａｇｒａｍ、ＬＩＮＥを追加した。また、ＪＣ宣言文改訂に伴い、新しいＪＣ宣言文を掲載した。さらに、理事長をはじめとする理事役員の入替掲載を行った。

呉ＪＣの歴史ページ（過去事業）については、Ｏｆｆｉｃｅｉｎｋ、空本印刷所、ＨｉｇｈＦｌｙより、入手可能な過去事業のポスターデータを取り寄せて、該当事業の［実施年度］［事業名］［事業目的］［結果］を過去議案書から調査し、それぞれ掲載した。

呉ＪＣの歴史ページ（呉ＪＣの歴史年表）については、以前より掲載している年表と、２０１９年のＳｌａｓｈ　ｍｙ　ｗａｙ委員会が作成した年表を合体させ、呉のまちの変化と共に歩んできた歴史

を掲載した。
入会案内ページをとにかく明るい委員会が作成した入会案内をアレンジして掲載した。
リンク集の中の現役会員、特別会員と関係の無いものの削除や、リンク切れを修正した。
＜年間更新作業について＞
事業告知や事業報告を毎月更新した。更新後は、毎回Ｆａｃｅｂｏｏｋにてページをシェアして拡散した。追加でＬＩＮＥにて、まちづくり事業のみ事業告知と事業報告を拡散した。

検証方法と効果　：グーグルアナリティクスにてホームページ訪問者等の分析を行った。
前年２月からのデータしかないため、正確な検証は出来ないが、予測値として訪問者や閲覧ページ数が増加したと考えられる。
効果として、ホームページから各種ＳＮＳへの相互誘引が可能になった。また、過去事業ページから呉青年会議所の活動を知って頂く機会となった。さらには、入会候補者勧誘の際に資料を持ち合わせてなくても、容易に詳細を説明出来るようになった。

３．事業名：年間広報事業
日　時：２０２１年　１月　１日～２０２１年１２月３１日
場　所：適宜の場所
協力団体：なし
事業概要（方法）：＜呉市の魅力情報＞
ＦａｃｅｂｏｏｋとＩｎｓｔａｇｒａｍを連携させて、毎月決まったテーマで呉市の魅力を発信した。その際には関連するハッシュタグをできるだけ多く付けて投稿した。また、発信する時間帯は主にゴールデンタイムと言われる８時、１２時、２０時のいずれかとした。最終投稿では、４月に行った君に届け！！！広報事業で登場したキャラクター探偵Ｊ氏を登場させ、謎解きを絡めた魅力発信を行

い、余韻を持たせた。

＜呉青年会議所会員紹介＞

ＹｏｕＴｕｂｅに毎月設定した会員の紹介動画を公開し、ＦａｃｅｂｏｏｋとＴｗｉｔｔｅｒにてＵＲＬをシェアして拡散した。

＜各事業に関する広報＞

今年度よりＬＩＮＥと、ＹｏｕＴｕｂｅの公式アカウントを開設した。ＹｏｕＴｕｂｅには、過去まちづくり事業のＰＶ等を掲載し、再生リストを作成して整理した。

事業報告、例会報告については、ホームページでページを作成し、Ｆａｃｅｂｏｏｋで積極的にシェアした。特に、まちづくり事業の報告についてはＬＩＮＥでも発信した。

事業告知（対外）については、各委員会と協議のうえ、募集ページをホームページで作成し、追加情報等をＦａｃｅｂｏｏｋ、Ｉｎｓｔａｇｒａｍ、ＬＩＮＥにて発信した。

各種訪問活動や同好会については、Ｔｗｉｔｔｅｒにて発信した。

また、最終日の１２月３１日には、２０２１年度が行ってきた例会・事業の総活動画を作成してＹｏｕＴｕｂｅにて配信し、Ｆａｃｅｂｏｏｋにてシェアした。

検証方法と効果　：一般の方の生活に密接した呉市の魅力情報を発信することにより、呉青年会議所のページを見て頂くきっかけとなり、結果として各ＳＮＳのフォロワー増加につながった。また、関連するハッシュタグを多くつけることで、ハッシュタグ検索からのフォロワーも獲得できた。

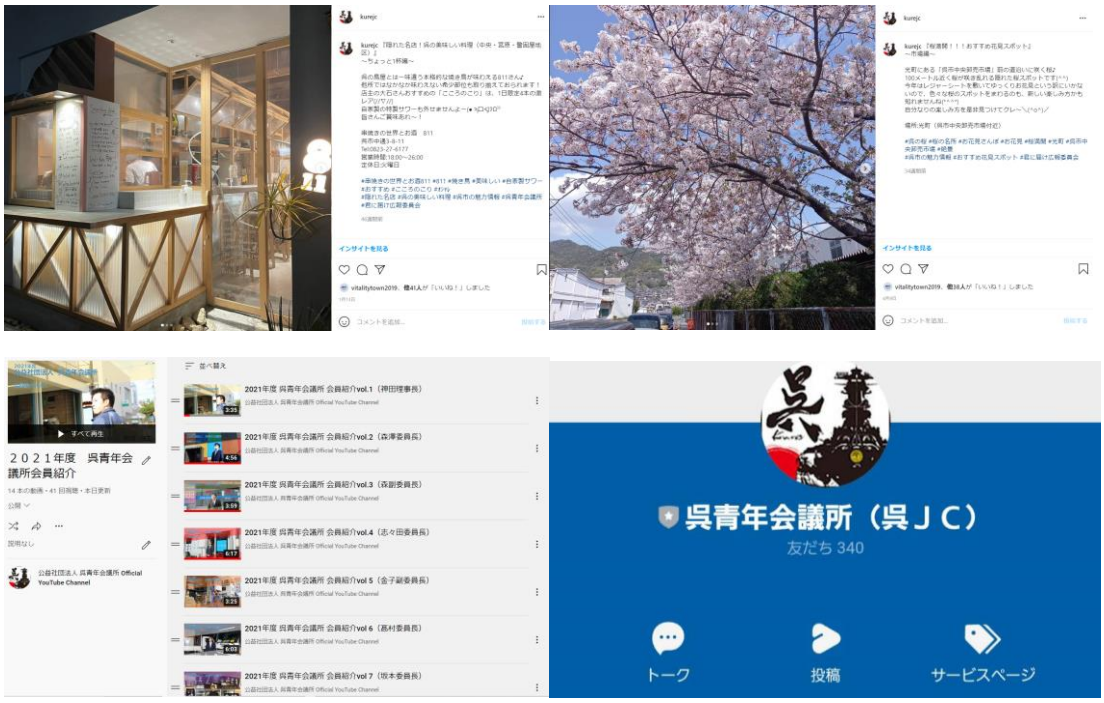
閉鎖的とも言える青年会議所の会員を知ってもらう機会として、呉青年会議所の会員紹介を発信し、閲覧していただくことで、どのような想いで活動しているか等を少しでも理解頂けた。

発信する内容によりＳＮＳを使い分けることで、一般の閲覧者から好印象を持って頂けた。

ＹｏｕＴｕｂｅという動画コンテンツが追加されたことにより、閲覧する側の理解につながった。

登録者に直接情報を届けることができるＬＩＮＥにより、満遍なく広報ができる体制になった。

最終日に総括動画を配信し、シェアした記事にて１年間と御礼と次年度への期待を発信することにより、次年度への切替えがスムーズに行えたと考える。



４．事業名：４月担当例会（公益目的事業　セミナー事業）

日　時：２０２１年　４月　５日（月）

１９：５０～２０：５２

場　所：クレイトンベイホテル３階　天の間

ＺＯＯＭ配信

協力団体：なし

事業概要（方法）：１）基本方針・スローガンの説明と、それに至った背景の説明、問題提起についてＰＰを使用して発表した。

２）基本方針・スローガンに沿った具体的な年間事業計画についてＰＰを使用して発表した。

３）年間広報事業についての新しい取組についてＰＰと動画を使用して発表した。

４）新しい広報ツールについてＰＰを使用して発表した。

５）【４月例会『例会会場を守れ』４６４９】と題し、ＬＩＮＥ謎解きを体験して頂いた。ＰＰにＱＲコードを表示したが、現役メンバーへは全体ＬＩＮＥを使用して案内し、仮入会員にはＱＲコードを印刷した紙にて別途案内した。

６）君に届け！！！広報事業　ＬＩＮＥ謎解き街歩き『探偵Ｊ氏の事件簿～怪盗イーダからの挑戦状～』の事業概要説明をＰＰと動画を使用して説明した。事業背景・事業目的を周知し、各委

員会の役割を説明し、事業の広報協力と運営協力を依頼した。

７）委員長挨拶を行った。

８）室長挨拶を行った。

検証方法と効果　：メンバーへのアンケートにて、目標の１００％は達成できなかったが基本方針・スローガンの方向性や、ゴールに向かってどのように広報していくか等の内容は理解して頂けて、かつ共感頂けた。また、その方向性の中で、君に届け！！！広報事業が如何に必要な事業なのかを共有でき、メンバーに何を協力して頂きたいかについて理解して頂けた。

５．事業名：君に届け！！！広報事業（公益目的事業　地域魅力再度発見事業）
ＬＩＮＥ謎解き街歩き　「探偵Ｊ氏の事件簿　～怪盗イーダからの挑戦状～」

日　時：２０２１年　４月２９日（木）
１１：００～１５：００

場　所：呉れんが通りアーケード内

協力団体：呉市役所（秘書広報課・商工振興課）
呉市教育委員会
呉中通商店街振興組合

事業概要（方法）：メインターゲットである呉市の３０～４０代の方々を中心とした４２４名（１８２組）にご参加頂き、れんが通りを舞台に新たな広報ツールであるＬＩＮＥを使用した謎解きを開催した。謎解き内には、

れんが通りの歴史・魅力などを発見できる内容を盛り込み、街歩きしながら謎解きをすることで、直接れんが通りの魅力を感じて頂ける設えとした。謎解きをクリアしてもＷＥＢアンケートを答えないとクリア合言葉が分からない仕組みとすることで、参加者から確実にアンケートを取った。ゴール受付にてクリア合言葉を確認し、景品（エコバッグ、クリアファイル）をお渡しして、呉氏等身大パネルの前で記念撮影を行った。記念撮影の待合場所には、２０１９年ＦｉｒｓｔＳｔｅｐ委員会が作成した過去事業パネルを展示し、参加者に見て頂いた。また、クリアファイルの中に呉氏からのメッセージ動画のＱＲコードを隠し、クリア後に各自で視聴頂いた。

検証方法と効果　：謎解き参加者全ての方にアンケートに回答頂いた。

れんが通りの魅力について新しい発見があったと答えた方：９２．５％

事業後にれんが通りを訪れてみたいと感じている方：９９．０％

呉青年会議所に興味を持ったと答えた方：９２．５％

謎解きをしながら、れんが通りを歩いてもらう事で、普段気づかないような魅力や知識を気づいてもらう事ができた。それに伴って、後日れんが通りに遊びに来たいという多数のアンケート結果からも分かるように、まちへの関心を持って頂けたと考える。また、謎解きの内容やキーパーソンの設定に、呉青年会議所に関する内容を散りばめることで、呉青年会議所に対するイメージの向上と興味に繋げることができた。 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、呉みなと祭りが中止になったが、しっかりと感染症対策を講じて事業を行うことで、多くの方に参加頂き、まちを盛り上げようと他団体を含む地域全体が前向きな雰囲気へ変わることができた。また、今後このようなリアルに交流ができる機会が増えるきっかけのイベントになることができた。

６．事業名：年間事業報告書作成

日　時：２０２２年　３月

場　所：適宜の場所

協力団体：なし

事業概要（方法）：一年間の事業活動をもとに各理事がワードにて作成し、収集・製本して各所へ配布した。また、ＰＤＦ化したデジタルデータをホームページ上に掲載した。

配布については、ホームページに掲載後に現役・特別会員、関係諸団体に案内した。

検証方法と効果　：年初に配布した事業計画書に基づき一年間に行った事業活動告を現役・特別会員、関係諸団体に広く周知することで、我々の活動を理解して頂き、次年度以降もより円滑に活動を行うことができるようになった。

『事業報告』

Ｍａｋｅ　Ｓｅｎｓｅ総務委員会
委員長　岡本　大正

〔スローガン〕理にかなった運営をする

まずは総会、例会運営に関して今年はＺＯＯＭと現地でのハイブリット開催となり、最初の２月、３月は音響トラブルが続いた。会場の音声をＺＯＯＭへ入力する線とＺＯＯＭの声を出力する線が存在したためだ。またＺＯＯＭ用にパソコン１台とＺＯＯＭ用のビデオカメラ操作も必要となった。しかしハイブリット開催のおかげで緊急事態宣言下においては完全ＺＯＯＭでの総会、例会を行えた。年間事業計画に変更はなく、すべての事業を遂行することができた。１月の新年互礼会では１月７日の東京、千葉等の緊急事態宣言発令の影響でやむを得ず現地開催を中止とし、ＹＯＵ　ＴＵＢＥ配信とした。２０２０年１２月から来賓を呼ばないことは決めていたので来賓者には事前にお祝いのコメントをビデオ収録に伺っていた。そのため動画には呉市長をはじめ、高知青年会議所理事長、高雄青年会議所役員一同まで出演頂き、充実した内容のあるものであった。しかしながらそこまで準備しておきながら現地開催を中止にした判断を非常に後悔しており、延期してでもやればよかったと反省をした。この反省はのちの創立記念日例会と卒業式に活かすことができた。高知合同例会においては高知青年会議所の近森実行委員長と連携し、上程を行った。ロムツアーにおいてはバスの中でのレクリエーションや桂浜での散策を用意していたが、高知青年会議所の中止の決定にどうすることもできなかった。１１月創立記念日例会と卒業式の上程は８、９月と広島県の緊急事態宣言下だった。そのため議案書に通常開催に加え、蔓延防止、緊急事態宣言であった場合の２パターンを検討する必要があり頭を抱えた。しかしながら１月新年互礼会での反省があったおかげで大きな決意をもって通常開催に向けて準備ができた。１１月創立記念日例会ではピアノ、バイオリン、チェロの演奏者を呼び三重奏で特別会員を出迎え、国歌斉唱、ＪＣソングを歌ったことで創立記念日にふさわしい特別感を演出できた。また卒業式においてはこれまでの毎月の例会と創立記念日でのパーティー例会の経験を基に準備を進めた結果、失敗することなく終えることができた。同ラインの坂本委員長はいつもクオリティの高い議案書と、入念な事前準備に感心し、刺激を受けた。平岡室長は上程日遅くまで対応してもらった。高橋副理事長はミスの多い添付資料や議案書を隅々までチェックしていただいた。一人では到底成しえない事業をやり遂げたることができ、心が晴れ晴れしている。１年間関わっていただいた皆様、ありがとうございました。

事業報告

１．事業名：総会運営

日　時：毎総会

場　所：クレイトンベイホテル・ＺＯＯＭ配信

協力団体：なし

事業概要（方法）：毎総会において、資料作成・会場設営・受付・運営・司会・議事録作成を行った。定款の定めを遵視し、会員全員による呉青年会議所 の最重要事項の意思決定を円滑に行えるよう総会の運営に務めた。基本的には現地とＺＯＯＭのハイブリット開催をおこなったが、緊急事態宣言下の９月においては完全ＺＯＯＭでの総会となった。

検証方法と効果：定款に沿って運営、実施された。定時総会、臨時総会は開催されたすべての総会において正会員の過半数（委任状含む）を持って成立した。総会を厳粛な雰囲気の中、定款に沿い運営することで、メンバーに総会の大切さと会の意思決定の重要性を再確認することが出来た。非常時の総会開催においてＺＯＯＭを用いた総会の開催を確立することが出来た。

２．事業名：例会運営

日　時：毎例会

場　所：クレイトンベイホテル・ＺＯＯＭ配信

協力団体：なし

事業概要（方法）：毎例会において、ＺＯＯＭの設営およびセレモニー部の会場設営・受付・司会進行を行った。緊急事態宣言の理由で６月、８月、９月は完全リモートでの例会となった。例会食は低糖質のテーマを掲げ、運動不足になりがちなコロナ禍においてもしっかり食べられるメニューを思考した。休憩中には教えてＯＯ先生と題した動画を流し、

学びのある例会を設営した。

検証方法と効果：検証方法は例会出席率とした。ハイブリット開催とし、会社の規定で例会に参加できない人も参加できるよう対応した。休憩時間には教えてＯＯ先生という動画の中で、日本青年会議所の鎌田会頭、高雄青年会議所理事長やムロオ山下社長、日興証券などに出演頂いた。事前にアンケートを実施し、メンバーの疑問や知りたいことについて１０分間ほどの動画にまとめることで学びある例会を実施した。

３．事業名：１月例会（新年互礼会）

日　時：２０２１年　１月　９日（土）

場　所：ＹｏｕＴｕｂｅ配信

協力団体：なし

事業概要（方法）：緊急事態宣言下ということで新年互礼会をＹｏｕＴｕｂｅ動画配信とした。

【構成】

ＪＣＩクリード唱和：木内副理事長

ＪＣＩビジョン並びにミッション唱和：國久保副理事長

ＪＣ宣言文朗読並びに綱領唱和：高橋副理事長

所信表明：神田理事長

来賓者挨拶

呉市長：新原　芳明　様

呉商工会議所　会頭：神津　善三朗　様

呉市教育委員会　教育長：寺本　有伸　様

ＪＣＩ高知次年度理事長：中野　勝之　君

ＪＣＩ高雄の役員一同

理事役員紹介

謝辞：　高橋副理事長

検証方法と効果：現役会員はＷｅｂアンケート、特別会員１０名には電話にてアンケートをヒアリングした。現役会員のアンケートによると動画編集の評価は非常に高かったが、実際の会場で行う場合と差異があるという結果が出た。特別会員においては過半数が視聴していなかった。緊急事態宣言下のため会場で行うことができない状況であっても、理事長所信を視聴者に伝えることができた。

４．事業名：６月例会

日　時：２０２１年　６月１９日（土）

１９：００～１９：４５

場　所：ＺＯＯＭ配信

協力団体：なし

事業概要（方法）：１）ＪＣＩクリード唱和：木内副理事長
２）ＪＣＩビジョン並びにＪＣＩミッション唱和：國久保副理事長
３）ＪＣ宣言文朗読並びに綱領唱和：高橋副理事長
４）理事長挨拶：神田理事長
５）高知青年会議所挨拶動画
６）監事講評：松村監事

検証方法と効果：例会終了後ＷＥＢアンケートを実施した。検証の結果９０％の参加者に高知の想いを理解していただくことができた。高知の地での合同例会は叶わなかったが例会を中止することなく行ったことで呉青年会議所の活動としてモチベーションを保つことができ、また高知の想いを届けることができた。

５．事業名：１１月例会（創立記念日例会）
日　時：２０２１年１１月１３日（土）
１９：００～２１：００
場　所：クレイトンベイホテル３階 天の間１、２
協力団体：なし
事業概要（方法）：１）生演奏（ピアノ・チェロ・バイオリン）によるお出迎え
２）セレモニー　（生演奏：君が代、ＪＣソング）
３）オープニングムービー
４）理事長挨拶
５）特別会員紹介

６）特別会員会筆頭代表幹事　挨拶
７）乾杯
８）歓談
９）次年度理事役員の紹介
１０）２０２１年度新入会員の紹介
１１）歓談
１２）担当副理事長　謝辞
１３）明日のために　斉唱
１４）閉会

検証方法と効果：検証は特別会員にアンケートを実施した。活動内容についてはオープニング動画で困難な環境の中活動を続けてきたことを伝え、また理事長挨拶で活動の理念を伝えていただいた結果１００％の方に理解をして頂けた。創立記念日例会はパーティー例会であり、如何にして通常と違う特別感を出すかと考えた結果、生演奏の設えを採用し、格式を高めるべく選曲を行った。その結果１００％の方に共感いただくことができた。今年度の活動、理念、そして創立記念日例会の格式を高めた結果、今後も特別会員から支持を得ることを事業目的とした。結果、１００％の方から今後も活動にご理解、ご賛同頂けると回答を得た。コロナ禍で大人数での飲食が否定的な状況であったが、会場で行えたことで今年の青年会議所活動を理解していただき、今後の活動に賛同を得ることができた。

６．事業名：１２月第１例会（次年度担当例会）

日　時：２０２１年１２月　６日（月）

１９：００～２１：００

場　所：クレイトンベイホテル３階　天の間

ＺＯＯＭ配信

協力団体：なし

事業概要（方法）：１）スローガン発表を除幕にて行った。

２）理事長所信及び基本方針を説明した。

３）２０２２年度の正副役員を紹介した。

４）出向者の紹介を行った。

５）委員会タイムを行い、委員長より委員メンバーへ基本方針を簡潔に伝え、全員が自己紹介を行った。

６）委員会ごとに登壇し、会員全体に周知した。

７）例会終了後、アンケートで委員長の基本方針の周知の調査を行った。

検証方法と効果：アンケートによって次年度理事長所信の理解度と次年度の当人の役割を理解したか集計したところ１００％のメンバーが次年度理事長所信を理解できており、当人の役割も理解できたという結果を得ることができた。除幕は次年度理事長の個性を出し、７０周年の門出をしっかりと記憶に残るものにできた。

７．事業名：１２月第２例会（卒業式・納会・卒業送別会）

日　時：２０２１年１２月１８日（土）

１９：００～２１：００

場　所：クレイトンベイホテル３階　花の間、天の間

協力団体：なし

事業概要（方法）:【卒業式】

１）卒業生入場

２）国歌斉唱、ＪＣソング斉唱、ＪＣＩクリード唱和、ＪＣＩミッション並びにＪＣＩビジョン唱和、ＪＣ宣言文朗読並びに綱領唱和

３）理事長挨拶

４）卒業生紹介・感謝状授与

５）送辞朗読

６）答辞朗読

７）卒業式終了、会場移動

８）卒業生写真撮影

【納会】

１）総括動画

２）理事長総括スピーチ

３）プレジデンシャルリース伝達（総務委員会が持参）

４）理事長予定者挨拶

５）ＪＣ旗伝達

６）特別会員会　筆頭代表幹事（樽村　建治　先輩）挨拶

７）閉会

【卒業送別会】

１）卒業生入場（入場動画）

２）開会

３）特別会員紹介

４）乾杯

５）記念品紹介及び授与

６）卒業生による出し物

７）副理事長謝辞

８）明日のために斉唱

９）中締め

１０）閉会

検証方法と効果：卒業生および現役会員にアンケートを行った。その結果１００％のメンバーと卒業生が気持ちよく送り出せた／卒業できた　と回答を頂けた。卒業式ではとにかくトラブルが無いようリハーサルを何度も行ったが、当日の内容のボリュームが多いためバタバタしてしまったが、大きな失敗もなくスムーズに式を遂行できた。

公益社団法人　呉青年会議所

会計報告書

自　　2021年1月1日
至　　2021年12月31日

【呉青年会議所】

貸　借　対　照　表

2021年12月31日現在

（単位：円）

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ　資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	3,345,828	3,596,308	-250,480
未収金	955,937	615,095	340,842
貯蔵品	23,400	9,000	14,400
△貸倒引当金	38,000	24,000	14,000
流動資産合計	4,287,165	4,196,403	90,762
2. 固定資産			
(1)特定資産			
周年事業積立資産	6,450,000	4,950,000	1,500,000
退職給付引当資産	2,418,000	2,364,000	54,000
特定資産合計	8,868,000	7,314,000	1,554,000
固定資産合計	8,868,000	7,314,000	1,554,000
資産合計	13,155,165	11,510,403	1,644,762
Ⅱ　負債の部			
1. 流動負債			
未払金	38,000	35,000	3,000
預り金	1,466,486	1,676,869	-210,383
流動負債合計	1,504,486	1,711,869	-207,383
2. 固定負債			
退職給付引当金	2,418,000	2,364,000	54,000
固定負債合計	2,418,000	2,364,000	54,000
負債合計	3,922,486	4,075,869	-153,383
Ⅲ　正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
2. 一般正味財産	9,232,679	7,434,534	1,798,145
（うち特定資産への充当額）	（ 6,450,000 ）	（ 4,950,000 ）	（ 1,500,000 ）
正味財産合計	9,232,679	7,434,534	1,798,145
負債及び正味財産合計	13,155,165	11,510,403	1,644,762

【呉青年会議所】

正味財産増減計算書

2021年1月1日から2021年12月31日まで

（単位：円）

勘定科目	本年度決算	前年度決算	増減
Ⅰ．一般正味財産増減の部			
１．経常増減の部			
（１）経常収益			
特定資産運用益	(0)	(0)	(0)
受取入会金	(1,425,000)	(1,350,000)	(75,000)
受取入会金	1,425,000	1,350,000	75,000
受取会費	(11,865,000)	(12,555,000)	(-690,000)
普通会員受取会費	7,575,000	8,250,000	-675,000
特別会員受取会費	4,290,000	4,305,000	-15,000
事業収益	(158,000)	(0)	(158,000)
登録料収入	158,000	0	158,000
受取補助金等	(172,280)	(300,000)	(-127,720)
補助金収入	172,280	300,000	-127,720
販売金	(0)	(0)	(0)
販売収入	0	0	0
受取寄付金	(1,080,000)	(120,000)	(960,000)
寄付金収入	1,080,000	120,000	960,000
雑収益	(287,795)	(294,655)	(-6,860)
受取利息	195	640	-445
雑収入	287,600	294,015	-6,415
経常収益計	(14,988,075)	(14,619,655)	(368,420)
（２）経常費用			
事業費	(8,857,500)	(7,925,417)	(932,083)
給与手当	1,519,550	1,538,324	-18,774
福利厚生費	340,216	331,623	8,593
旅費交通費	0	23,840	-23,840
通信運搬費	206,752	130,451	76,301
消耗品費	316,578	1,789,509	-1,472,931
印刷製本費	1,057,014	1,089,304	-32,290
光熱水料費	44,783	49,130	-4,347
賃借料	677,970	677,970	0
保険料	40,700	26,600	14,100
諸謝金	54,400	276,440	-222,040
支払助成金	80,000	80,000	0
委託費	551,530	1,056,200	-504,670
会場費	688,380	349,900	338,480
レンタル料	139,500	9,250	130,250
記念品費	2,515,139	162,376	2,352,763
広告費	518,788	228,300	290,488
清掃費	79,200	79,200	0
退職給付費用	27,000	27,000	0

【呉青年会議所】

正味財産増減計算書

2021年1月1日から2021年12月31日まで

（単位：円）

勘定科目	本年度決算	前年度決算	増減
管理費	(4,332,430)	(4,469,825)	-137,395
給与手当	1,519,550	1,538,324	-18,774
福利厚生費	257,216	260,623	-3,407
会議費	78,650	18,150	60,500
通信運搬費	235,971	297,050	-61,079
消耗品費	94,412	129,959	-35,547
印刷製本費	27,984	74,800	-46,816
光熱水料費	44,782	49,129	-4,347
賃借料	677,970	677,970	0
諸謝金	111,000	117,600	-6,600
租税公課	21,000	21,000	0
支払手数料	179,696	178,804	892
清掃費	79,200	79,200	0
図書費	159,750	166,250	-6,500
諸会費	778,074	794,657	-16,583
退職給付費用	27,000	27,000	0
貸倒引当金繰入額	14,000	0	14,000
雑費	26,175	39,309	-13,134
経常費用計	(13,189,930)	(12,395,242)	(794,688)
評価損益等調整前当期経常増減額	【 1,798,145 】	【 2,224,413 】	【 -426,268 】
評価損益等計	(0)	(0)	(0)
当期経常増減額	【 1,798,145 】	【 2,224,413 】	【 -426,268 】
2．経常外増減の部			
（1）経常外収益			
貸倒引当金戻入額	0	10,000	
経常外収益計	(0)	(10,000)	(-10,000)
（2）経常外費用			
会費等回収不能額	0	193,104	-193,104
経常外費用計	(0)	(193,104)	(-193,104)
当期経常外損益増減額	【 0 】	【 -183,104 】	【 183,104 】
指定正味財産からの振替額	(0)	(0)	(0)
当期一般正味財産増減額	【 1,798,145 】	【 2,041,309 】	【 -243,164 】
一般正味財産期首残高	7,434,534	5,393,225	2,041,309
一般正味財産期末残高	9,232,679	7,434,534	1,798,145
Ⅱ．指定正味財産増減の部			
特定財産運用益			
預金利息収入	(0)	(0)	(0)
一般正味財産への振替額	(0)	(0)	(0)
当期指定正味財産増減額	【 0 】	【 0 】	【 0 】
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ．正味財産期末残高	【 9,232,679 】	【 7,434,534 】	【 1,798,145 】

【呉青年会議所】

正味財産増減計算書内訳表

2021年1月1日から2021年12月31日まで

（単位：円）

科目	公益目的事業等会計			収益事業等会計			法人会計	内部取引消去	合計
	公1	共通	小計	他1	共通	小計			
Ⅰ 一般正味財産増減の部									
1 経常増減の部									
（1）経常収益									
① 特定資産運用益	(0)		(0)	(0)		(0)	(0)		(0)
② 受取入会金	(1,425,000)		(1,425,000)	(0)		(0)	(0)		(1,425,000)
受取入会金	1,425,000		1,425,000			0	0		1,425,000
③ 受取会費	(5,932,500)		(5,932,500)	(1,321,104)		(1,321,104)	(4,611,396)		(11,865,000)
普通会員受取会費	3,787,500		3,787,500	842,864		842,864	2,944,636		7,575,000
特別会員受取会費	2,145,000		2,145,000	478,240		478,240	1,666,760		4,290,000
④ 事業収益	(158,000)		(158,000)	(0)		(0)	(0)		(158,000)
登録料収入	158,000		158,000	0		0	0		158,000
⑤ 受取補助金等	(172,280)		(172,280)	(0)		(0)	(0)		(172,280)
補助金収入	172,280		172,280			0	0		172,280
⑥ 販売金	(0)		(0)	( )		( )	( )		(0)
販売金収入			0						0
⑦ 受取寄付金	(1,080,000)		(1,080,000)	( )		( )	( )		(1,080,000)
寄付金収入	1,080,000		1,080,000						1,080,000
⑧ 雑収益	(0)		(0)	(0)		(0)	(287,795)		(287,795)
受取利息						0	195		195
その他収益						0	287,600		287,600
経常収益計	8,767,780	0	8,767,780	1,321,104		1,321,104	4,899,191	0	14,988,075
（2）経常費用									
事業費	(7,536,396)		(7,536,396)	(1,321,104)		(1,321,104)			(8,857,500)
給与手当	1,519,550		1,519,550			0			1,519,550
福利厚生費	257,216		257,216	83,000		83,000			340,216
旅費交通費	0		0			0			0
通信運搬費	164,172		164,172	42,580		42,580			206,752
消耗品費	231,743		231,743	84,835		84,835			316,578
印刷製本費	576,132		576,132	480,882		480,882			1,057,014
光熱水料費	44,783		44,783			0			44,783
賃借料	677,970		677,970			0			677,970
保険料	40,700		40,700			0			40,700
諸謝金	14,400		14,400	40,000		40,000			54,400
租税公課			0			0			0
支払助成金	80,000		80,000			0			80,000
委託費	348,300		348,300	203,230		203,230			551,530
会場費	401,400		401,400	286,980		286,980			688,380
レンタル料	113,000		113,000	26,500		26,500			139,500
記念品費	2,442,042		2,442,042	73,097		73,097			2,515,139
広告費	518,788		518,788			0			518,788
清掃費	79,200		79,200			0			79,200
退職給付費用	27,000		27,000			0			27,000
雑費			0	0		0			0
管理費	( )		( )	( )		( )	(4,332,430)		(4,332,430)
給与手当							1,519,550		1,519,550
福利厚生費							257,216		257,216
会議費							78,650		78,650
旅費交通費							0		0
通信運搬費							235,971		235,971
消耗品費							94,412		94,412
修繕費							0		0
印刷製本費							27,984		27,984
燃料費							0		0
光熱水料費							44,782		44,782
賃借料							677,970		677,970
保険料							0		0
謝礼金							111,000		111,000
租税公課							21,000		21,000
支払手数料							179,696		179,696
清掃費							79,200		79,200
図書費							159,750		159,750
諸会費							778,074		778,074
退職給付費用							27,000		27,000
貸倒引当金繰入額							14,000		14,000
雑費							26,175		26,175
経常費用計	7,536,396	0	7,536,396	1,321,104	0	1,321,104	4,332,430	0	13,189,930
当期経常増減額	1,231,384	0	1,231,384	0	0	0	566,761	0	1,798,145
2 経常外増減の部									
（1）経常外収益									0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（2）経常外費用									
会費等回収不能額				0					0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外損益増減額	0		0	0		0	0		0
指定正味財産からの振替			0			0			0
他会計振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	1,231,384	0	1,231,384	0	0	0	566,761	0	1,798,145
一般正味財産前残高	1,170,071		1,170,071			0	6,264,463		7,434,534
一般正味財産期末残高	2,401,455		2,401,455	0		0	6,831,224		9,232,679
Ⅱ 指定正味財産増減の部									
一般正味財産への振替			0						0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産前残高			0			0	0		0
指定正味財産期末残高	0		0	0		0	0		0
Ⅲ 正味財産期末残高	2,401,455		2,401,455	0		0	6,831,224		9,232,679

財務諸表に対する注記

Ⅰ 重要な会計方針

引当金の計上基準

退職給付引当金　職員の退職金の支給に備えるため、期末退職給与の自己都合要支給額に相当する金額を計上しております。

消費税等の会計処理　消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

Ⅱ 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

（単位：円）

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
【特定資産】				
周年事業積立資産	4,950,000	1,500,000	0	6,450,000
退職給付引当資産	2,364,000	54,000	0	2,418,000
合計	7,314,000	1,554,000	0	8,868,000

Ⅲ 特定資産の財源の内訳

特定資産の財源の内訳は、次のとおりである。

（単位：円）

科目	当期末残高	（うち指定正味財産からの充当額）	（うち一般正味財産からの充当額）	（うち負債に対応する額）
【特定資産】				
周年事業積立資産	6,450,000	（ — ）	（ 6,450,000 ）	（ — ）
退職給付引当資産	2,418,000	（ — ）	（ — ）	（ 2,418,000 ）
合計	8,868,000	—	6,450,000	2,418,000

Ⅳ 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は次のとおりである。

（単位：円）

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
青年会議所活動助成補助金	呉市	0	172,280	172,280	0	一般正味財産
合計		0	172,280	172,280	0	

Ⅴ その他

・未収会費の回収不能額の計上については、3ヶ年を超えて支払請求を通知したにもかかわらず、支払意思の表示が全く確認されないものを計上処理している。

附属明細書

Ⅰ　特定資産の明細
注記に記載しているため、省略する。

Ⅱ　引当金の明細　　（単位：円）

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	2,364,000	54,000	0	0	2,418,000

財産目録

2021年12月31日現在

（単位:円）

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
（流動資産）	現金	手元保管	運転資金として	343,064
	預金	【普通預金】		
		呉信用金庫本店営業部	運転資金として	767,971
		呉信用金庫本店営業部	運転資金として	1,366,830
		もみじ銀行呉営業部	運転資金として	63,242
		広島銀行呉支店	運転資金として	804,721
			〈現金・預金計〉	3,345,828
	未収金	現役会員5名	当会計期間内に会員が納入すべき会費等の未収分である	955,937
		特別会員7名		
		貸倒引当金		△ 38,000
			〈未収金計〉	917,937
	貯蔵品	JCバッチ13個		23,400
			〈貯蔵品計〉	23,400
流動資産合計				4,287,165
（固定資産） 特定資産	周年事業積立資産	【定期預金】 呉信用金庫本店営業部	No0067878 周年事業の積立資金として管理している	6,450,000
	退職給付引当資産	【定期預金】 広島銀行呉支店	No3045298 職員退職給付の引当資産として管理している	2,418,000
			〈特定資産計〉	8,868,000
固定資産合計			*うち特定資産*	8,868,000
資産合計				13,155,165
（流動負債）	未払金	㈲空本印刷所	2021年度事業報告書作成費	35,382
		日本郵便	2021年度事業報告書郵送代	2,618
	預り金	現役会員	普通会員個人が負担すべき例会食事代及び登録料等の支払いのための預り金である	1,275,192
		源泉所得税・市民税・社会保険料	職員の給与より源泉徴収した源泉所得税及び県市民税、社会保険料	191,294
			〈未払金・預り金計〉	1,504,486
流動負債合計				1,504,486
（固定負債）	退職給付引当金	職員分	【退職給付引当金】 公益目的事業及び管理目的の業務に従事する職員1名分の退職給付金	
			〈退職給付引当金計〉	2,418,000
固定負債合計				2,418,000
負債合計				3,922,486
正味財産				9,232,679

監査報告書

公益社団法人　呉青年会議所
理事長　　神田　真生　　殿

2022年1月18日

公益社団法人　呉青年会議所
監事　井田 大敬
監事　松村 和樹

私たち監事は、2021年1月1日から2021年12月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査しました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備を努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決済資料等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその付属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

一、事業報告は法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

二、理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果計算書類は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

監査報告書

公益社団法人 呉青年会議所
理事長　　神田　真生　　殿

2022年1月18日

広島県呉市中通2丁目4番14号

武安会計事務所
監査人・税理士　武安紘二

上記、公益社団法人呉青年会議所2021年度収支決算報告書に関して本職は補助者2名をもって、公益社団法人呉青年会議所会計全般における現金の実査、預貯金の残高確認、諸帳簿の記帳確認、証憑書類、関係書類の照合確認等監査致しました結果、すべて適正・適法に処理が為されて且つ上記のとおり正当に表示されていることを認めます。

JCI™
Junior Chamber International Kure

公益社団法人　呉青年会議所
事務局／〒737−0045　呉市本通4丁目8番12号
呉商工会議所ビル南館内7F−704
TEL (0823) 21−1081　FAX (0823) 21−0800
https://www.kure-jc.or.jp/
e-mail info@kure-jc.or.jp